

第3期斑鳩町人口ビジョン

【2025年→2070年】

令和8年3月

斑鳩町

目次

序章 第3期斑鳩町人口ビジョンの策定にあたって	1
1. 人口ビジョンの位置付け	1
2. 第3期斑鳩町人口ビジョン策定の目的	1
3. 改訂の内容	1
4. 国の人口推移と社会情勢	2
第1章 斑鳩町の人口動向の現状と見通し	3
1-1. 現状分析	3
(1) 総人口の推移	3
(2) 人口動向	4
(3) 人口動態	6
(4) 要因別分析	7
(5) その他の分析	11
1-2. 将来人口の見通し	14
(1) 第2期斑鳩町人口ビジョンの検証	14
(2) 趨勢人口の推計	17
(3) 趨勢人口をふまえた将来人口のシミュレーション	19
(4) 将来人口のシミュレーションをふまえた課題	29
第2章 斑鳩町における人口の将来展望	34
2-1 めざすべき戦略人口と将来展望	34
(1) 斑鳩町の戦略人口	34
(2) 戦略人口に基づく将来展望	35
2-2 戦略人口の達成にむけて	42

序章 第3期斑鳩町人口ビジョンの策定にあたって

1. 人口ビジョンの位置付け

人口ビジョンは、本格的な人口減少社会を迎える中で、本町における人口の現状分析を行い、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後めざすべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。また、本町のまち・ひと・しごと創生総合戦略において、効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎と位置付けられるものです。

2. 第3期斑鳩町人口ビジョン策定の目的

第2期斑鳩町人口ビジョンは2020(令和2)年度に策定しましたが、その後の人口変化や国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の見直しにあわせて、第3期斑鳩町人口ビジョンとして改訂を行います。

3. 改訂の内容

(1)人口動向の追加

2020(令和2)年の第2期斑鳩町人口ビジョン策定以降の5年間の人口動向を追加します。

(2)各種統計調査結果の更新

2020(令和2)年の国勢調査をはじめとする、第2期斑鳩町人口ビジョン策定以降に新たに公表された各種統計調査結果を追加し、更新します。

(3)将来人口推計の見直し

国立社会保障・人口問題研究所から2023(令和5)年に公表された『日本の地域別将来推計人口(2023(令和5)年推計)』を基に、人口推計に必要なパラメータを用いて再推計します。

(4)推計期間の延長

推計期間を2065(令和47)年から5年延長し、2070(令和52)年まで推計します。

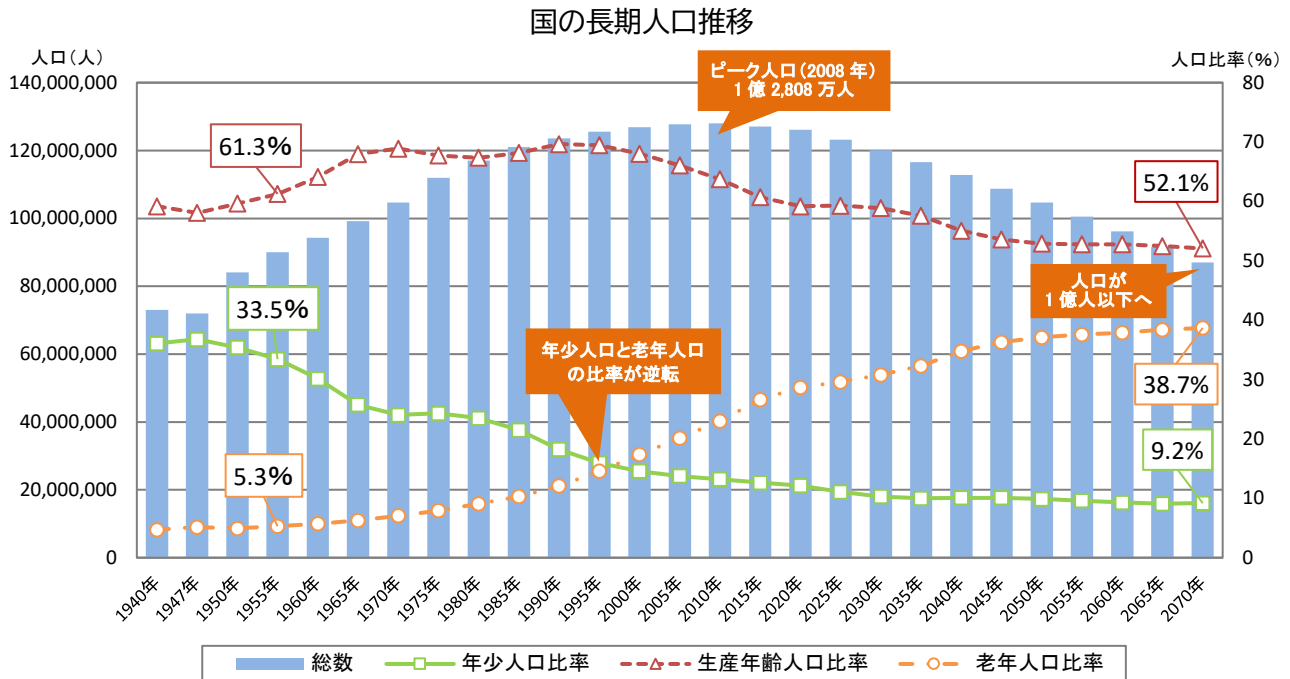
(5)推計ベース

推計の基礎となるデータは、住民基本台帳(男女別年齢別)の人口を利用しました。

注:本ビジョンの推計では、随時、推移を把握できる「住民基本台帳(以下、住基と言う。)人口」を利用します。住基は居住の公証や行政サービスの事務処理のため、住民基本台帳法に基づき町が管理している住民情報です。したがって、どの時点であっても人口情報を抽出することができます。ただし、注意点として、住基に登録されていても実際に住んでいないケース(例えば、学生が住民票を移動せず東京等の学校に進学する、など)が想定されます。

4. 国の人口推移と社会情勢

我が国の人口は、2008年の1億2,808万人をピークに減少に転じ、2070年には約8,700万人程度にまで減少すると推計されています。これは高度経済成長期の1955年の人口と概ね同程度ですが、年齢構成を比較すると、年少人口(0~14歳)と生産年齢人口(15~64歳)の割合が低く、老年人口(65歳以上)の割合が高くなっており、年少人口と老年人口の割合がほぼ逆転しています。



注:人口区分別人口比率は、分母から年齢不詳を除いて算出

資料:国勢調査、2023(令和5)年推計日本の将来推計人口・出生中位(死亡中位)

国の人口動向

出生数は減少

2023(令和5)年の出生数は72万7,277人で過去最少(8年連続減少)
(対前年43,482人減少)
合計特殊出生率は、1.20で過去最低(8年連続低下)

死亡数は増加

死亡数は、157万5,936人で過去最多(3年連続増加)
(対前年6,886人増加)

晩婚化の進行

1975(昭和50)年の平均初婚年齢「夫27.0歳、妻24.7歳」
→2023(令和5)年の平均初婚年齢「夫31.1歳、妻29.7歳」

人口の東京一極集中

2024(令和6)年の東京圏は13万5,843人の転入超過(29年連続)。(対前年9,328人拡大)

高齢化の進行

老年人口は、3,571万1,738人で、調査開始(1994(平成6)年)以降毎年増加していたが、2023(令和5)年に初めて減少。2024(令和6)年に再び増加(2015(平成27)年から年少人口の2倍以上に)

資料:2023(令和5)年人口動態統計月報年計(概数)の概況、2024(令和6)年住民基本台帳人口移動報告

第1章 斑鳩町の人口動向の現状と見通し

1-1. 現状分析

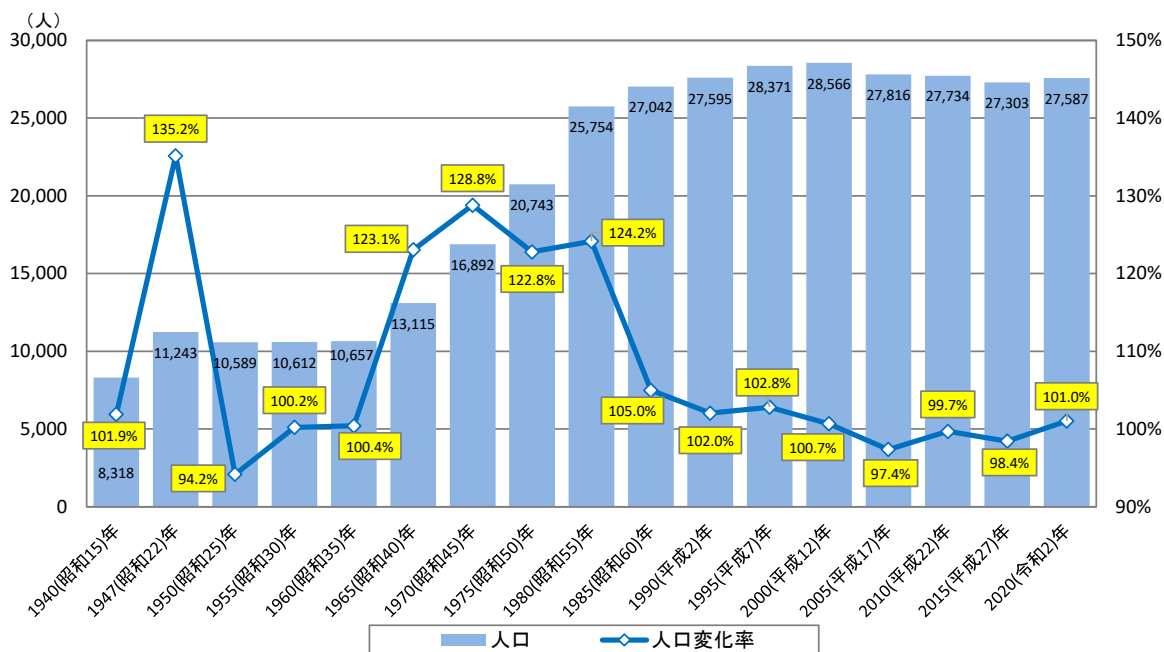
過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、時系列による人口動向や年齢階級別の人口移動分析を行います。

(1) 総人口の推移

斑鳩町の人口は、ベビーブーム等に伴って1947(昭和22)年に人口が大きく増加し、また、高度経済成長を背景に、1980(昭和55)年にかけて大きく増加しました。

2000(平成12)年に28,566人でピークを迎えた後は緩やかな減少に転じ、2020(令和2)年には27,587人となっています。

人口と人口変化率の推移

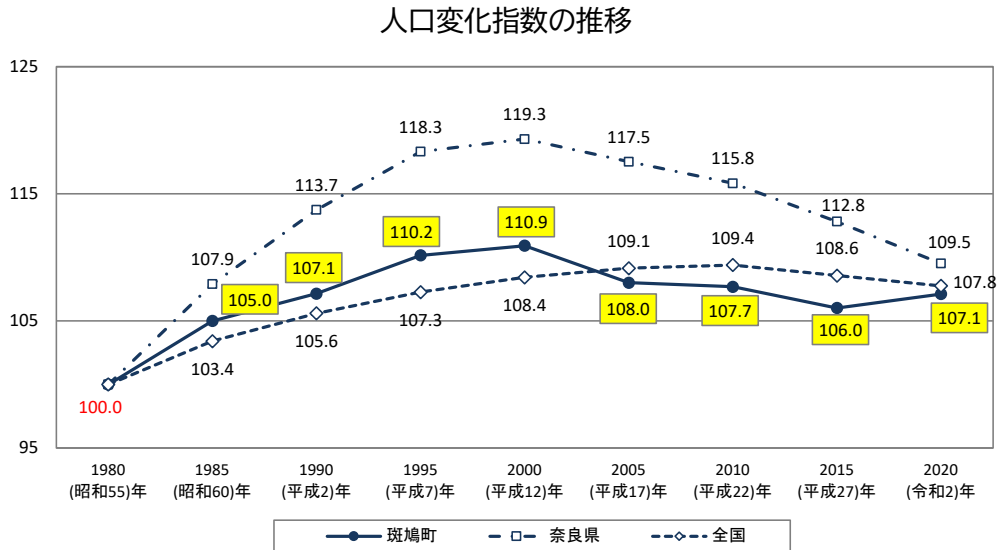


資料: 国勢調査

(2)人口動向

①人口変化指数

1980(昭和55)年の人口を100とした場合の変化指数の推移を全国・奈良県・斑鳩町で比較すると、全国では2010(平成22)年をピークに2015(平成27)年には減少へと転じていますが、奈良県では2000(平成12)年をピークに減少傾向で推移しています。また、斑鳩町では2000(平成12)年をピークに減少へと転じたものの、2005(平成17)年以降は横ばいで推移しています。

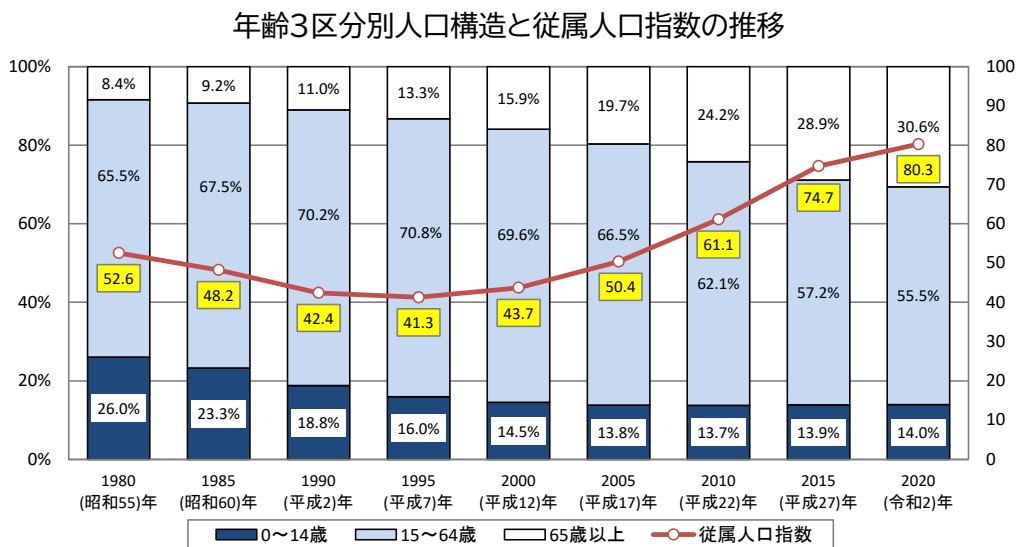


資料:国勢調査

②人口構成比

○年齢3区分別の人口構造の推移をみると、65歳以上の高齢化率が1980(昭和55)年から2020(令和2)年には40年間で22.2ポイント増加している一方で、0~14歳の年少人口比率は12ポイント減少しており、少子高齢化が進行しています。

○従属人口指数は、1995(平成7)年に減少のピークを迎えた後増加に転じ、2020(令和2)年には80.3と増加傾向が続いています。



資料:国勢調査

従属人口指数とは、生産年齢人口(15~64歳)に対する年少人口(0~14歳)、老年人口(65歳以上)の合計の比率で、働き手である生産年齢人口100人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すものです。

年齢 5 歳階級別人口

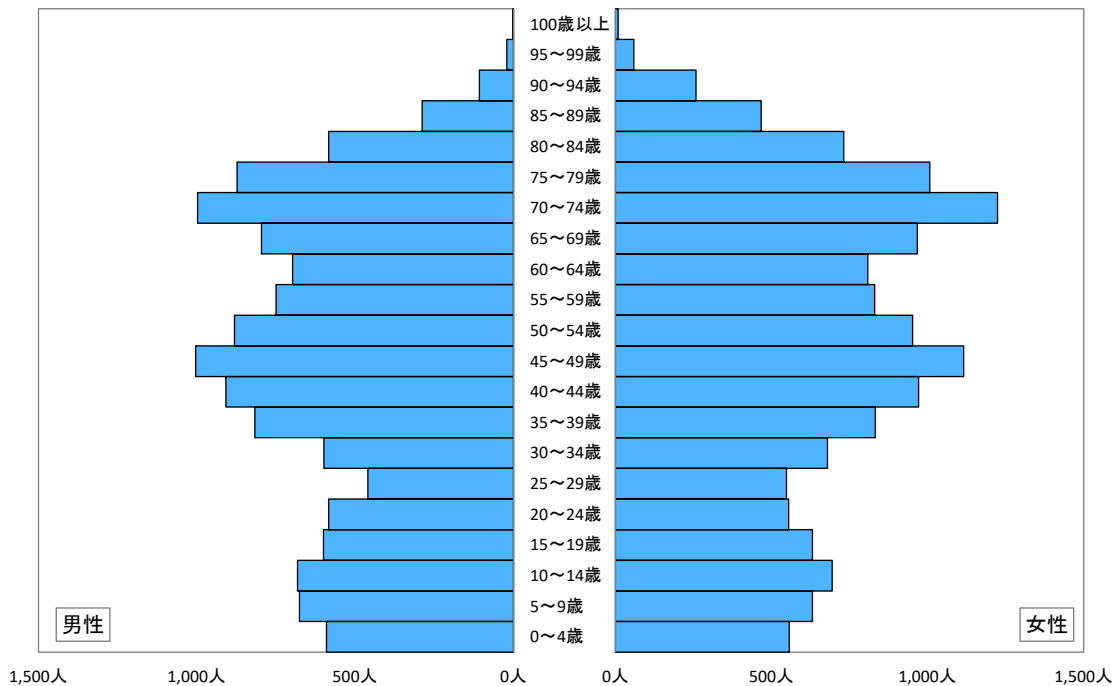
(単位:人)

		1980 (昭和55)年	1985 (昭和60)年	1990 (平成2)年	1995 (平成7)年	2000 (平成12)年	2005 (平成17)年	2010 (平成22)年	2015 (平成27)年	2020 (令和2)年	
人 口	年少人口	0～4歳	2,036	1,651	1,325	1,297	1,290	1,116	1,200	1,172	1,148
		5～9歳	2,539	2,068	1,739	1,414	1,389	1,339	1,249	1,332	1,307
		10～14歳	2,128	2,580	2,112	1,814	1,464	1,384	1,349	1,286	1,376
		計	6,703	6,299	5,176	4,525	4,143	3,839	3,798	3,790	3,831
	生産年齢人口	15～19歳	1,731	2,133	2,522	2,120	1,796	1,438	1,336	1,315	1,231
		20～24歳	1,439	1,637	1,961	2,317	1,883	1,570	1,276	1,134	1,139
		25～29歳	1,802	1,472	1,534	1,877	2,120	1,679	1,446	1,107	1,008
		30～34歳	2,453	1,856	1,530	1,683	1,902	1,938	1,701	1,440	1,278
		35～39歳	2,384	2,572	1,884	1,601	1,718	1,896	2,030	1,793	1,649
		40～44歳	2,050	2,418	2,557	1,969	1,648	1,670	1,878	2,051	1,879
		45～49歳	1,663	2,042	2,342	2,556	1,964	1,627	1,631	1,863	2,119
		50～54歳	1,447	1,652	1,999	2,370	2,562	1,928	1,566	1,607	1,833
		54～60歳	1,083	1,412	1,624	1,989	2,331	2,485	1,883	1,518	1,580
		60～64歳	827	1,049	1,389	1,594	1,912	2,268	2,420	1,791	1,506
	計	16,879	18,243	19,342	20,076	19,836	18,499	17,167	15,619	15,222	
	老年人口	65～74歳	1,469	1,532	1,759	2,309	2,789	3,253	3,888	4,356	3,985
		75歳以上	700	968	1,267	1,455	1,737	2,224	2,809	3,519	4,408
		計	2,169	2,500	3,026	3,764	4,526	5,477	6,697	7,875	8,393
	年齢不詳		3	0	51	6	61	1	72	19	141
総人口		25,754	27,042	27,595	28,371	28,566	27,816	27,734	27,303	27,587	
構 成 比	年少人口	0～14歳	26.0%	23.3%	18.8%	16.0%	14.5%	13.8%	13.7%	13.9%	14.0%
	生産年齢人口	15～64歳	65.5%	67.5%	70.2%	70.8%	69.6%	66.5%	62.1%	57.2%	55.5%
	老年人口	65歳以上	8.4%	9.2%	11.0%	13.3%	15.9%	19.7%	24.2%	28.9%	30.6%

資料:国勢調査

- 年齢 5 歳階級別人口の推移をみると、近年特に生産年齢人口の減少が大きくなっています。
- 2020(令和 2)年の5歳階級別人口構造をみると、団塊の世代を含む 70～74 歳の人口の割合が最も大きくなっており、少子高齢化の進行が加速するものと予測されます。

斑鳩町の5歳階級別人口構造



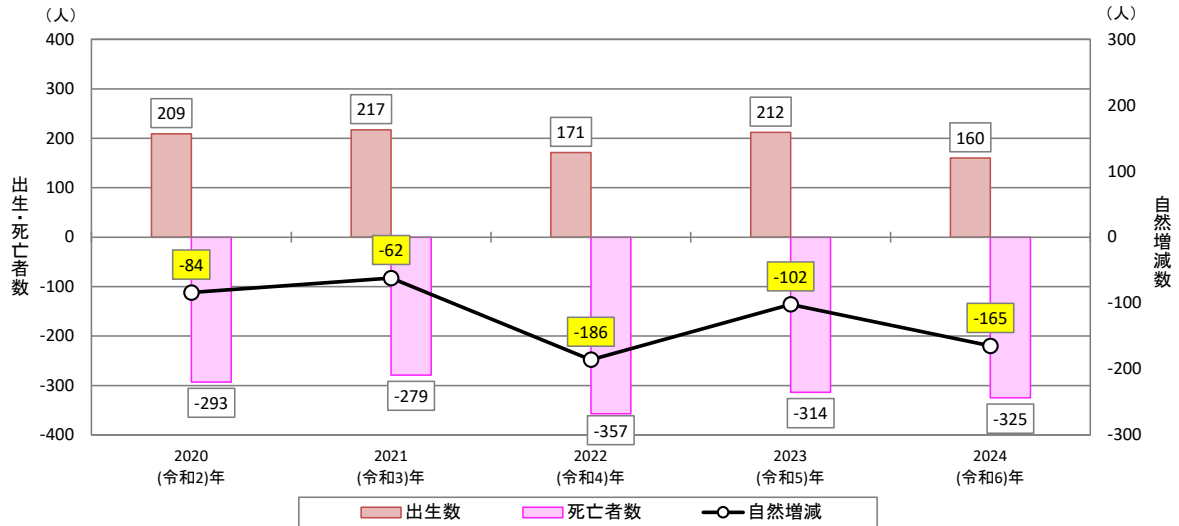
資料:2020(令和 2)年国勢調査

(3)人口動態

①自然動態

2020(令和2)～2024(令和6)年の5年間の出生・死亡者数をみると、出生数、死亡者数ともに増減を繰り返しながら推移していますが、自然増減数については自然減が続いており、2024(令和6)年には165人の自然減となっています。

出生・死亡者数の推移

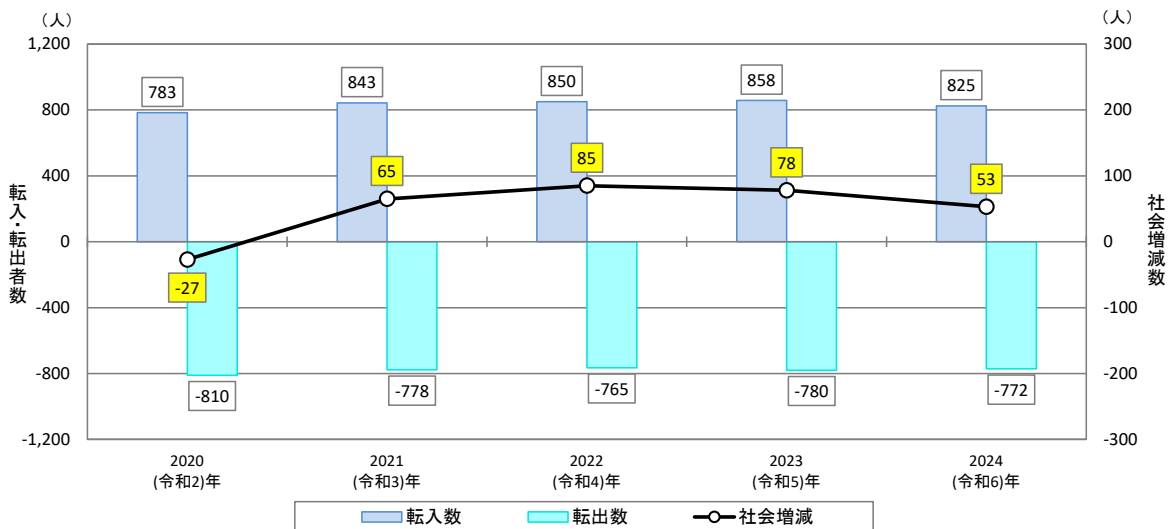


資料:人口動態統計

②社会動態

2020(令和2)～2024(令和6)年の5年間の転入・転出者数をみると、転入者数は2023(令和5)年までは増加で推移していましたが、2024(令和6)年は微減となっており、転出者数は増減を繰り返しながら推移しています。社会増減数については、2022(令和4)年をピークに減少しているものの社会増が続いており、2024(令和6)年には53人の社会増となっています。

転入・転出者数の推移

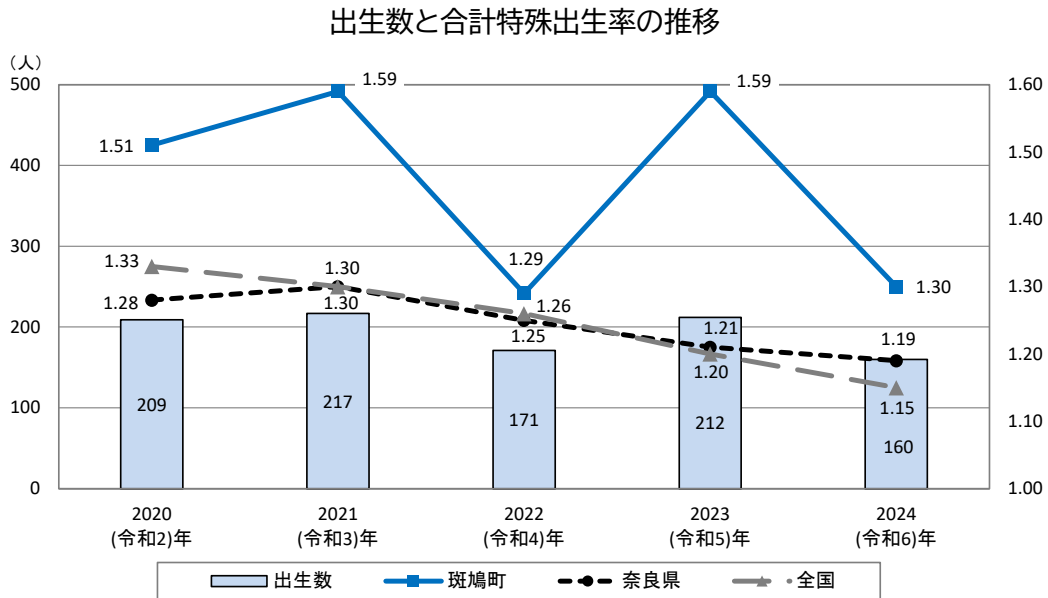


資料:住民基本台帳人口移動報告

(4)要因別分析

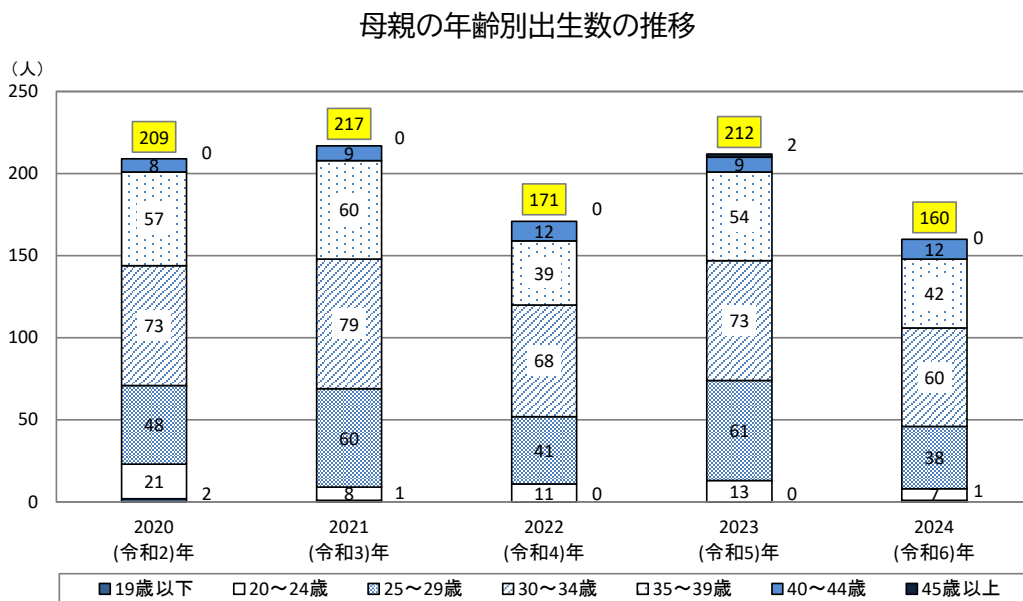
①出生の状況

2020(令和2)～2024(令和6)年の5年間の合計特殊出生率の推移をみると、全国、奈良県ともに減少傾向で、2024(令和6)年は全国が1.15、奈良県が1.19となっています。斑鳩町については、全国、奈良県よりも高く、1.29～1.59で推移しています。



資料：人口動態統計、住民基本台帳

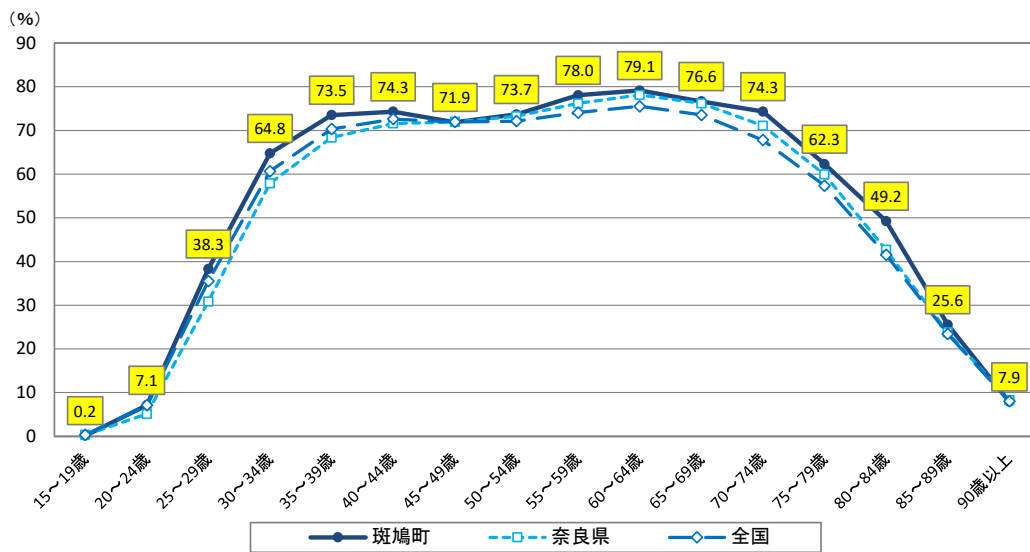
母親の年齢別出生数については、増減を繰り返しており、出生数が最も多い“30～34歳”では、各年60～80人前後で推移しています。



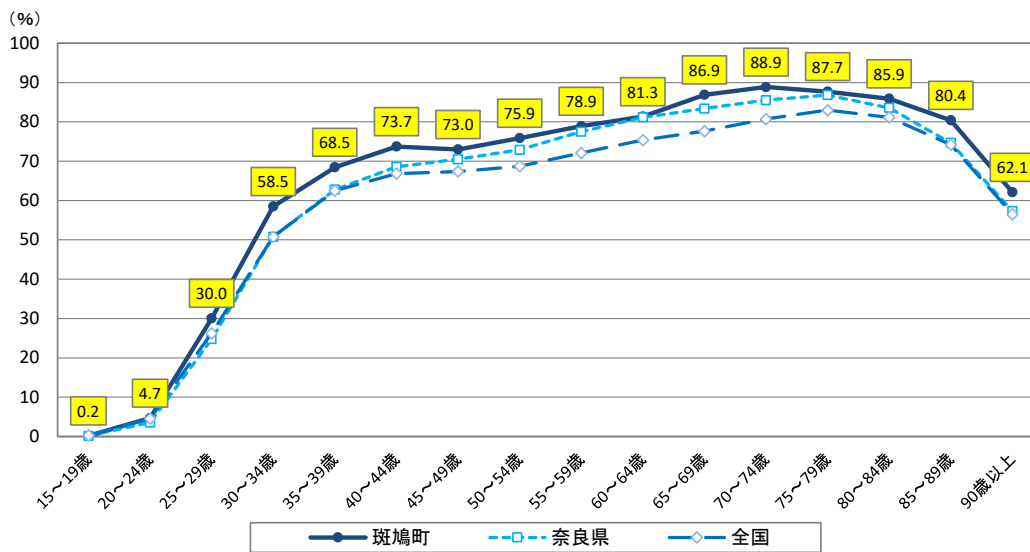
資料：人口動態統計

2020(令和2)年の女性・男性の有配偶率を全国・奈良県・斑鳩町で比較すると、斑鳩町の有配偶率は20歳代以上で全国・奈良県水準と同じか上回っています。

女性の有配偶率



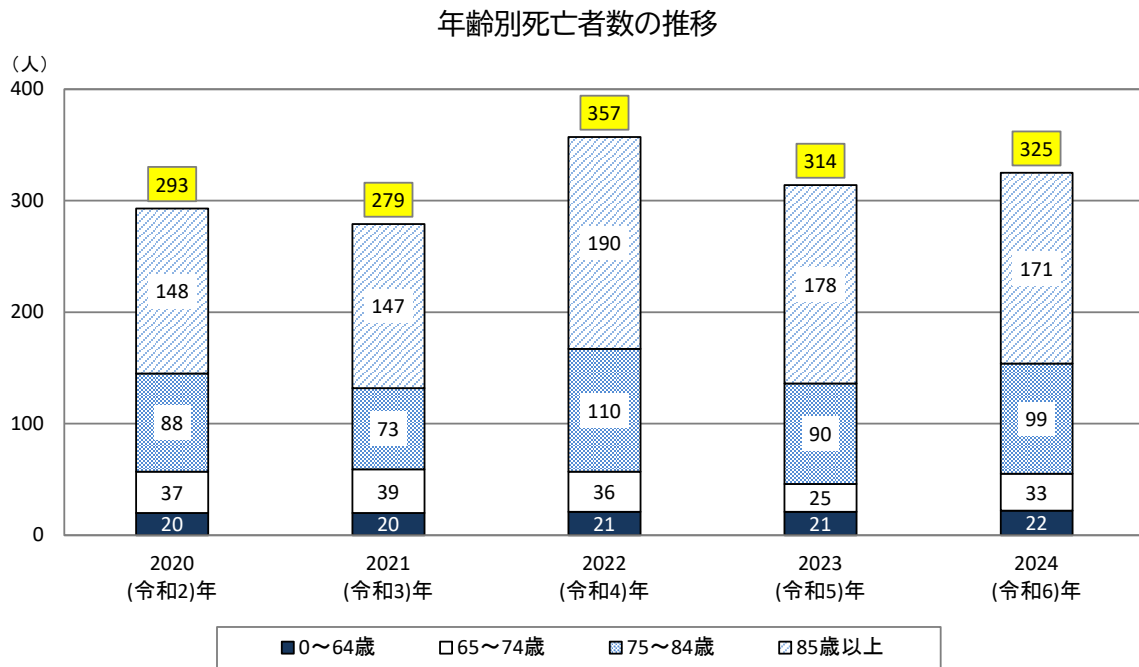
男性の有配偶率



資料:国勢調査

②死亡の状況

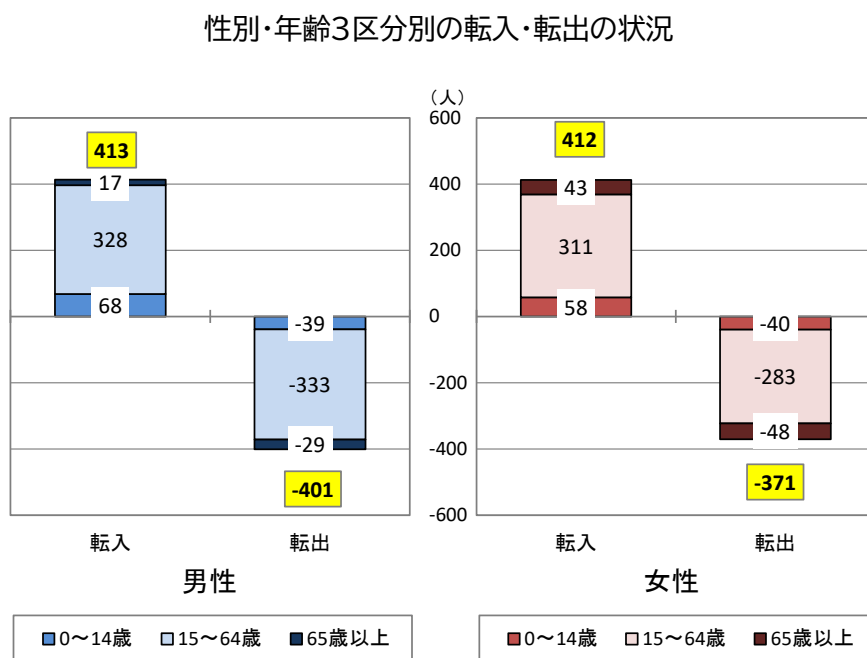
年齢別死亡者数をみると、270～350 人前後で推移しており、85 歳以上が占める割合が高い状況です。



資料：人口動態統計

③転入・転出の状況

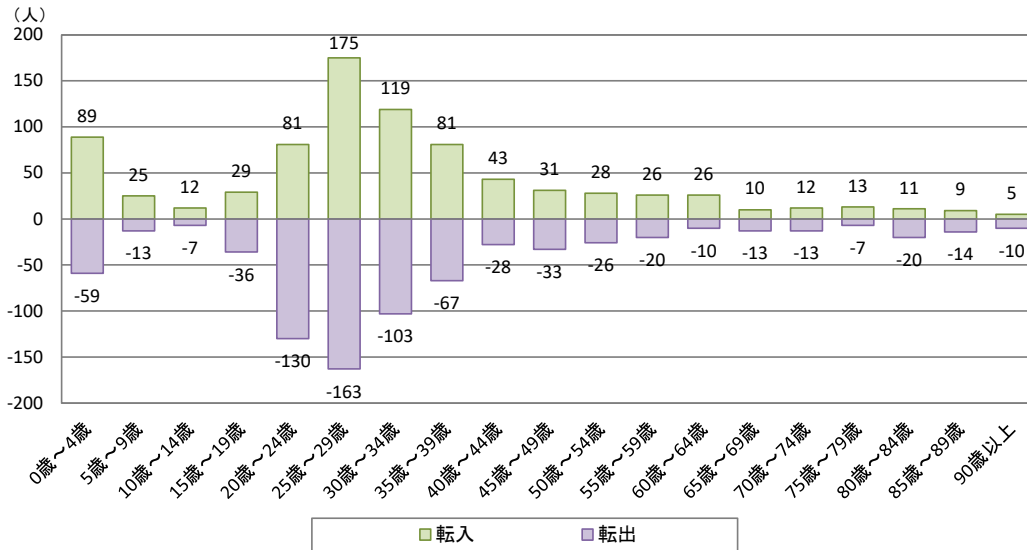
2024(令和 6)年の転入・転出の状況を性別・年齢3区分別にみると、男性は“0～14 歳”で、女性は“0～14 歳”と“15～64 歳”で転入超過となっています。



資料：2024(令和 6)年住民基本台帳人口移動報告

2024(令和6)年の転入・転出の状況を年齢5歳階級別にみると、“15～64歳”の中でも進学・就職あるいは退職の時期である“15～19歳”から“20～24歳”と“45～49歳”では転出超過となっているものの、“0～4歳”から“10～14歳”と“25～29歳”から“40～44歳”では転入超過となっています。“0～4歳”と“25～29歳”から“30～34歳”の転入が特に多く、子育て世代が多く転入している状況が伺えます。

年齢階級別転入・転出の状況

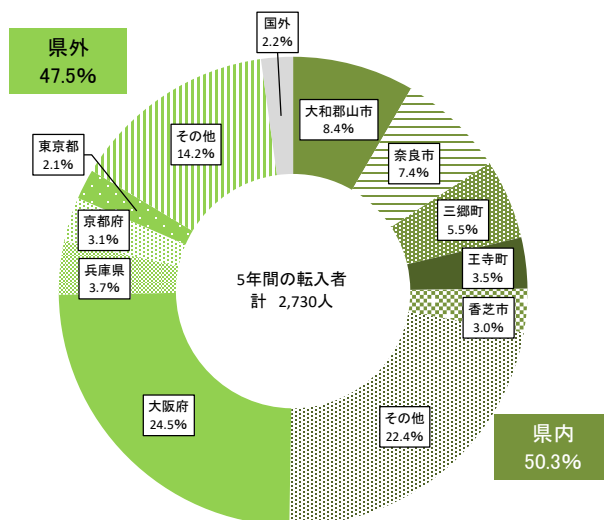


資料:2024(令和6)年住民基本台帳人口移動報告

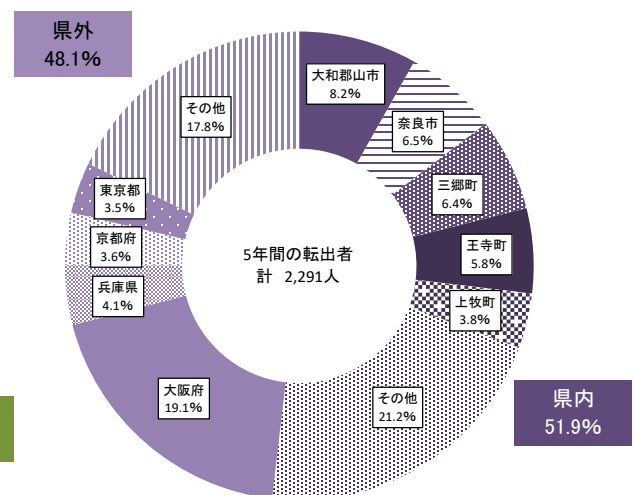
2020(令和2)年の転入・転出の状況を居住地別にみると、転入は県内からが50.3%と約半数を占め、大和郡山市が最も多く全体の8.4%となっています。転出についても県内が51.9%を占め、同じく大和郡山市が8.2%で最も多くなっています。

県外では、転入・転出ともに大阪府が最も多くなっています。

転入の状況



転出の状況



資料:2020(令和2)年国勢調査

(5)その他の分析

①通勤・通学の状況

2020(令和2)年の町内常住の就業者・通学者 13,542 人の従業・通学地についてみると、町内に通勤・通学している人が 3,493 人(25.8%)、他市区町村が 9,741 人(71.9%)となっています。

他市区町村への通勤・通学先は、大阪市が最も多く 2,466 人(25.9%)、次いで、大和郡山市が 1,149 人(12.1%)、奈良市が 999 人(10.5%)の順となっています。

他市区町村常住の就業者・通学者で斑鳩町に通勤・通学している人をみると、大和郡山市が最も多く 583 人(16.9%)、次いで奈良市が 404 人(11.7%)となっています。

男女別・従業通学地別の町内常住 15 歳以上就業者・通学者数

(単位:人)

区分	町内		他市区町村				不詳	計
	自宅で従業	自宅外の町内で従業・通学	県内の他市区町村で従業・通学	大阪府で従業・通学	その他の県で従業・通学	不詳		
男	555	1,001	2,617	2,486	316	140	159	7,274
女	470	1,467	2,703	1,275	125	79	149	6,268
小計	1,025	2,468	5,320	3,761	441	219	308	13,542
計 (構成比)	3,493 (25.8%)		9,741 (71.9%)				308 (2.3%)	13,542 (100.0%)

資料:2020(令和2)年国勢調査

常住地および従業通学地別の 15 歳以上就業者・通学者数

(単位:人)

区分	斑鳩町から他市区町村へ			他市区町村から斑鳩町へ		
	総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者
総数	9,522	8,556	966	3,442	2,905	537
県内	大和郡山市	1,149	1,085	64	583	114
	奈良市	999	827	172	404	122
	王寺町	426	404	22	207	15
	三郷町	327	304	23	269	28
	生駒市	309	230	79	184	46
	橿原市	190	168	22	89	6
	河合町	210	198	12	154	16
	その他	1,710	1,541	169	1,259	190
計	5,320	4,757	563	3,149	2,612	537
県外	大阪府	3,761	3,487	274	224	0
	大阪市	2,466	2,383	83	53	0
	東大阪市	238	193	45	28	0
	その他	1,057	911	146	143	0
	京都府	210	130	80	44	0
	兵庫県	124	89	35	7	0
	その他	107	93	14	18	0
計	4,202	3,799	403	293	0	
不詳	219	178	41			

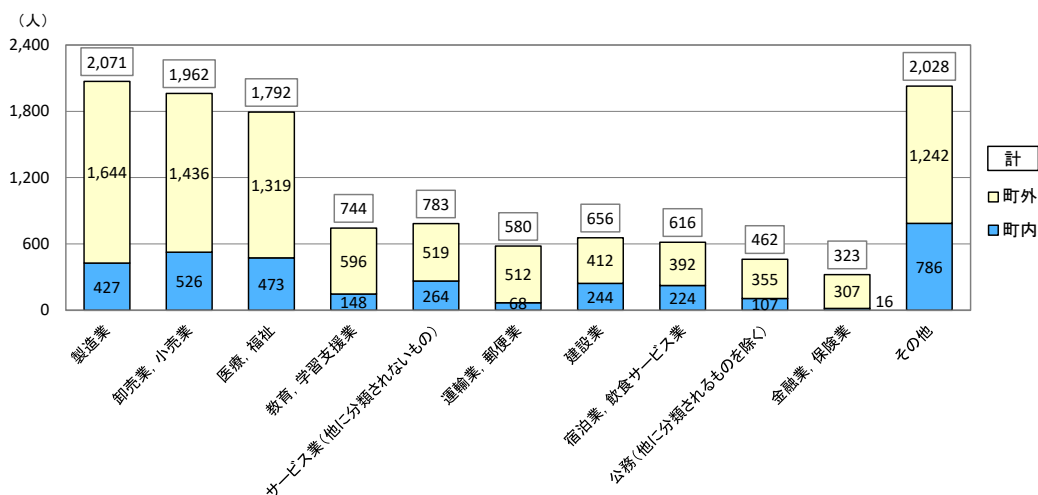
資料:2020(令和2)年国勢調査

②産業別就業者数

2020(令和2)年の斑鳩町常住の就業者は、従業地「不詳」の285人を除くと12,017人で、そのうち町内での就業者が3,283人(27.3%)、町外での就業者が8,734人(72.7%)となっています。

産業分類別にみると、製造業が2,071人と最も多く、そのうち427人(20.6%)が町内で就業しています。次いで、卸売業・小売業が1,962人で、そのうち526人(26.8%)が町内で就業している状況です。

斑鳩町内常住の就業者数(上位10産業)

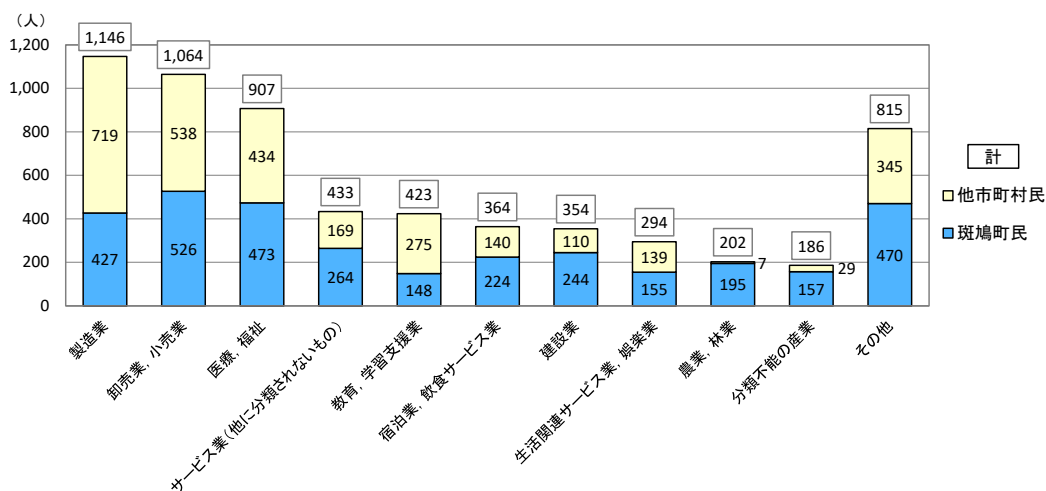


資料:2020(令和2)年国勢調査

また、2020(令和2)年の斑鳩町内従業の就業者数については6,188人で、斑鳩町民(町内常住者)が3,283人(53.1%)、他市町村民が2,905人(46.9%)となっています。

産業分類別にみると、製造業が1,146人と最も多く、そのうち他市町村民は719人(62.7%)を占めています。次いで、卸売業・小売業が1,064人で、そのうち他市町村民は538人(50.6%)となっています。

斑鳩町内従業の就業者数(上位10産業)

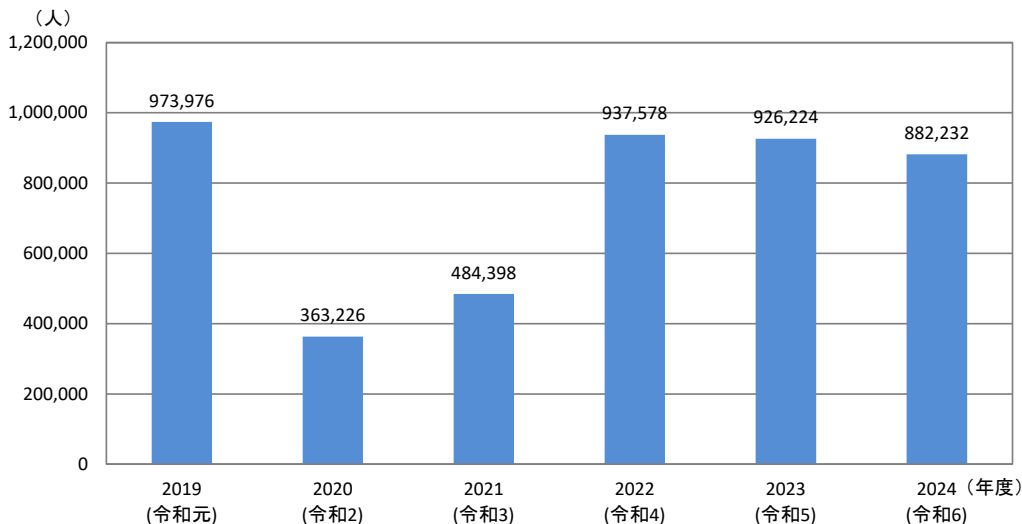


資料:2020(令和2)年国勢調査

③観光客数

本町の推計観光客数は、2020(令和2)年度から2021(令和3)年度には新型コロナウイルス感染症流行の影響で落ち込みましたが、2022(令和4)年度には流行前と同程度まで回復し、2024(令和6)年度には約88万2千人となっています。

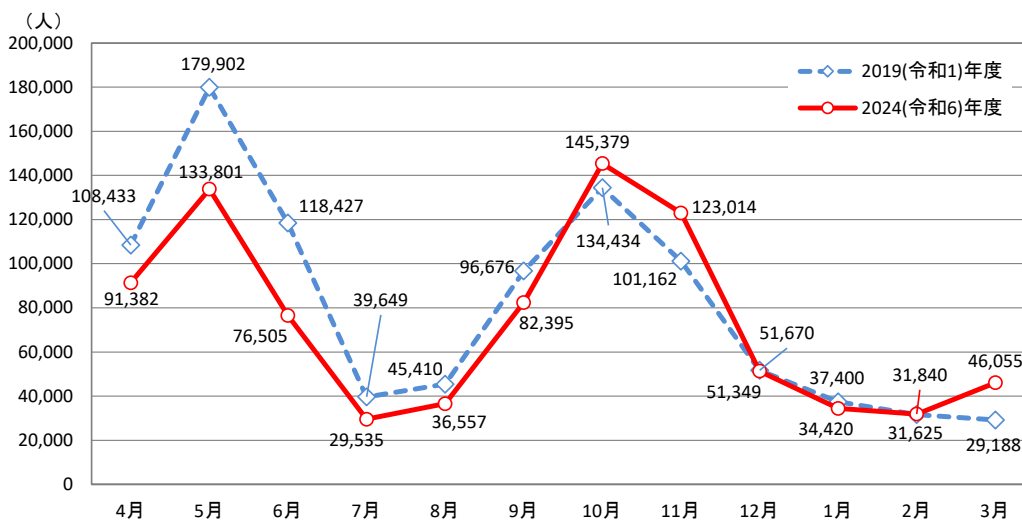
推計観光客数



資料:斑鳩町統計資料

月別の推計観光客数をみると、5月、10月、11月が多くなっており、春と秋のシーズン型観光地となっています。

月別推計観光客数



資料:斑鳩町統計資料

1-2. 将来人口の見通し

(1)第 2 期斑鳩町人口ビジョンの検証

- 本町では、2020 年に第 2 期斑鳩町人口ビジョンを策定し、2065 年までの戦略人口を示しました。これに基づいて同年「第 2 期斑鳩町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、2065 年に 20,700 人程度の戦略人口をめざして、人口減少、少子高齢化など人口に関する諸問題への対策を明らかにし、各施策を着実にすすめてきました。
- 本町の人口は、減少傾向にはあるものの、第 2 期人口ビジョンの戦略人口を大幅に上回る実績で推移しており、社会増の継続や出生数が横ばいで推移している状況を勘案すると、子育て支援策の充実をはじめとした各施策の効果が表れているものと考えられます。
- また、これまで、人口ビジョンでは国勢調査の人口で管理を行っていましたが、住民基本台帳人口との乖離が大きくなっていると同時に、5年に1度の調査であることから、随時、その推移を確認することができず、進捗管理が困難であるという課題があります。

①第2期斑鳩町人口ビジョンの目標と実績の比較

- 2023 年の国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)に準拠した推計による 2065 年の将来人口は、2018 年の社人研準拠推計より 3,282 人(20.6%)増加、戦略人口より 1,462 人少なく推計されています。
- 2020 年の国勢調査での実績は 27,587 人で、当時の社人研推計値より 1,052 人増加しています。また、住基人口とは 1,715 人の差があります。

◎第 2 期斑鳩町人口ビジョンの目標:2065 年に 20,700 人程度を維持

西暦(年)	2015	2020	2025	2035	2045	2055	2065
戦略人口(第2期人口ビジョン)	27,303	26,535	25,565	24,083	22,833	21,850	20,674
実際の人口(国勢調査)	27,303	27,587 +1,052人	—	—	—	—	—
実際の人口(住基人口)	28,259	28,250 +1,715人	—	—	—	—	—
社人研推計準拠(2023年)	—	—	27,309	25,441	23,422	21,463	-1,462人 19,212 +3,282人
社人研推計準拠(2018年3月)	27,303	26,535	25,512	22,921	20,419	18,240	15,930

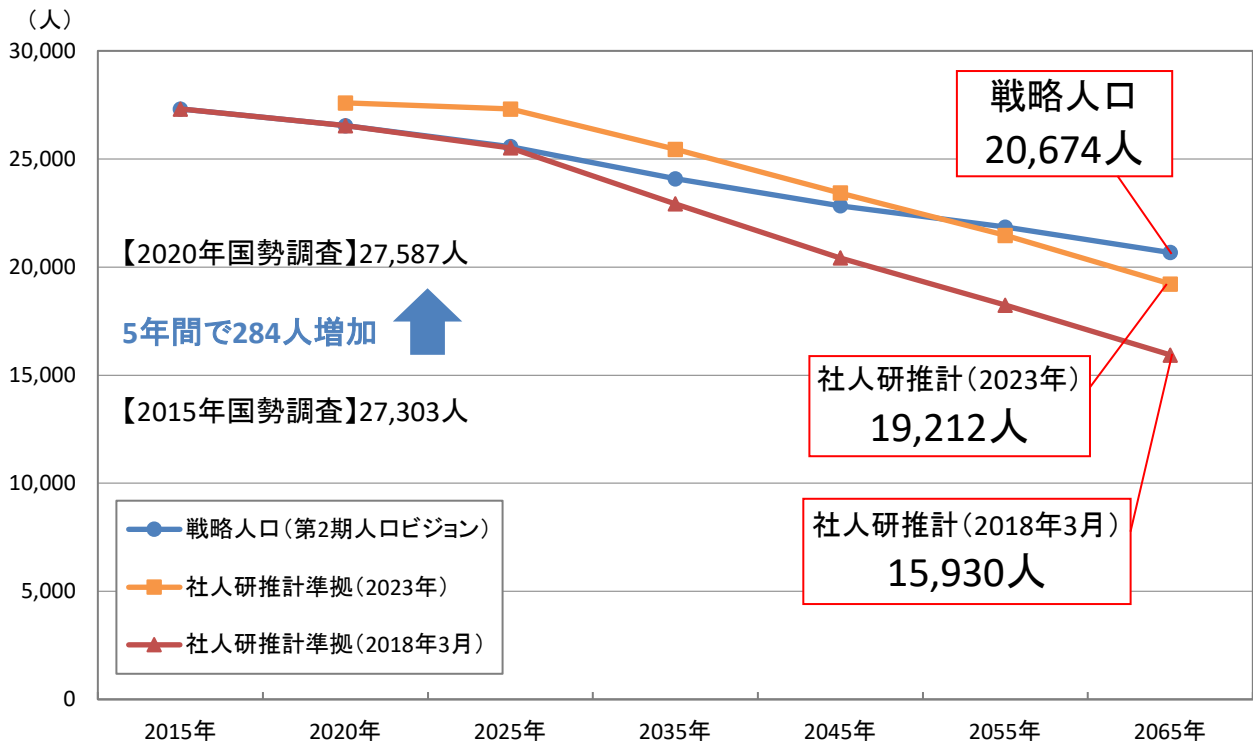
※国勢調査とは(実際の人口:基準日は 10 月 1 日)

住民票に関係なく、実際に現在、町内に住んでいる人の数で、国の人口動態は、国勢調査による人口を基礎としています。5年に1度、実施される行政上最も重要な統計調査です。【次回調査:2025 年】

※住民基本台帳人口とは(登録している人口)

本町に登録している住民基本台帳の数を数えます。町内に生活の本拠がない人でも住民票を移動していなければ、カウントされます。

第 2 期戦略人口と社人研推計(2018・2023)準拠人口の比較



○ 2018年の国(社人研)の将来推計では、2020年の人口が26,535人になり、2015年の人口27,303人から768人減少すると予測されていました。しかし、2020年の実績値は、当時の推計よりも1,052人多い27,587人となりました。したがって、2023年の国(社人研)の将来推計では、前回推計よりも緩やかに人口減少が進んでいくと予測されています。

- ・ 2020年国勢調査での実績:人口は27,587人【当時の国の推計値を1,052人上回る】
- ・ 2065年推計を比較: 前回(社人研 2018)15,930人
最新(社人研 2023)19,212人【+3,282人】

○ 第2期斑鳩町人口ビジョンでは、2025年の戦略人口を25,565人と設定している中で、社人研による推計では「27,309人」、2023年12月31日現在の住民基本台帳人口は「28,134人」となっています。この差は、戦略人口と社人研の推計値は、国勢調査をベースとしているためです。なお、住民基本台帳人口は、2020年～2024年の5年間は緩やかに減少しています。

②第 2 期斑鳩町人口ビジョンの推計設定要素の検証

- 第 2 期斑鳩町人口ビジョンにおける推計設定要素の 2025 年の目標値と実績を比較すると、合計特殊出生率は目標値に近づいており、自然動態、社会動態は目標値を上回っています。
- したがって、第 2 期斑鳩町人口ビジョンの戦略人口の設定方法およびその達成にむけた基本的な考え方を第 3 期斑鳩町人口ビジョンに継承します。

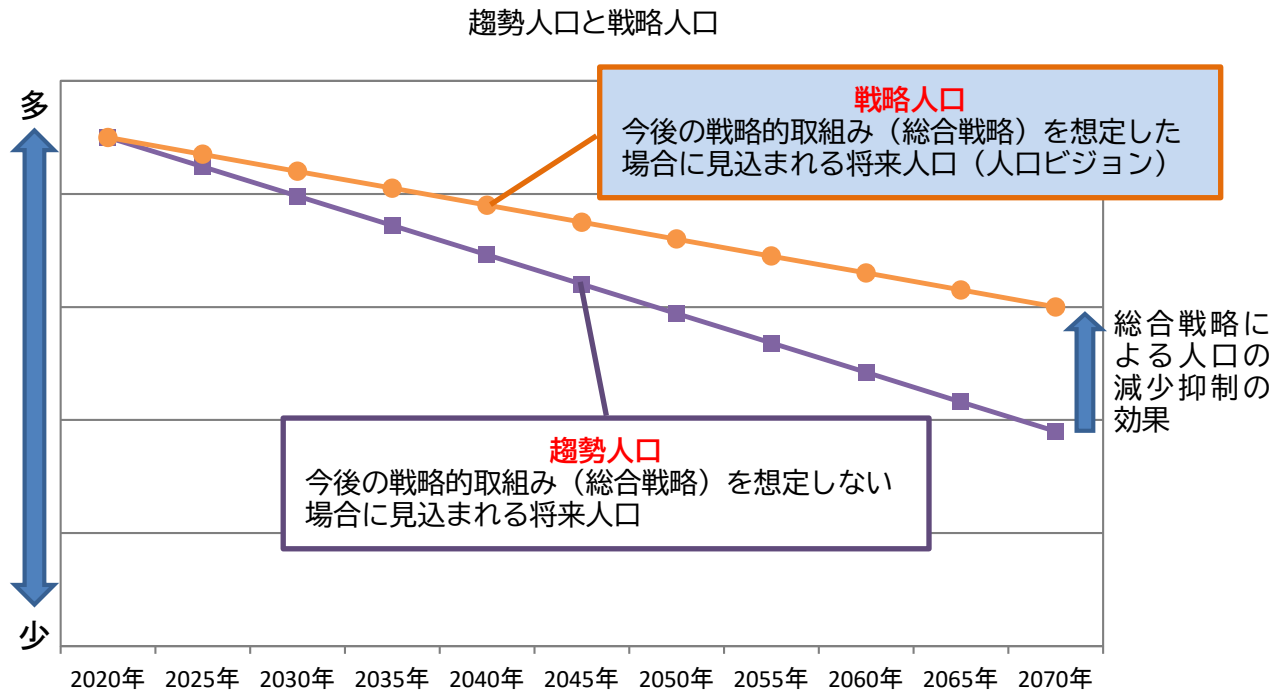
推計設定要素	区分	2025 年	評価
合計特殊出生率	第 2 期目標値	1.66	
	実績	1.49	
	差分	-0.17	目標値に近づいている
出生数	第 2 期目標値	204	
	実績	200	
	差分	-4	目標値に近づいている
死亡数	第 2 期目標値	-324	
	実績	-317	
	差分	7	目標値を上回っている
自然動態(出生数+死亡数)	第 2 期目標値	-120	
	実績	-117	
	差分	3	目標値を上回っている
社会動態	第 2 期目標値	-74	
	実績	76	
	差分	150	目標値を上回っている

※推計設定要素の 2025 年実績見込値は、2021~2023 年の平均値
 差分=2025 年実績見込値-第 2 期人口ビジョン 2025 年目標値

(2) 趨勢人口の推計

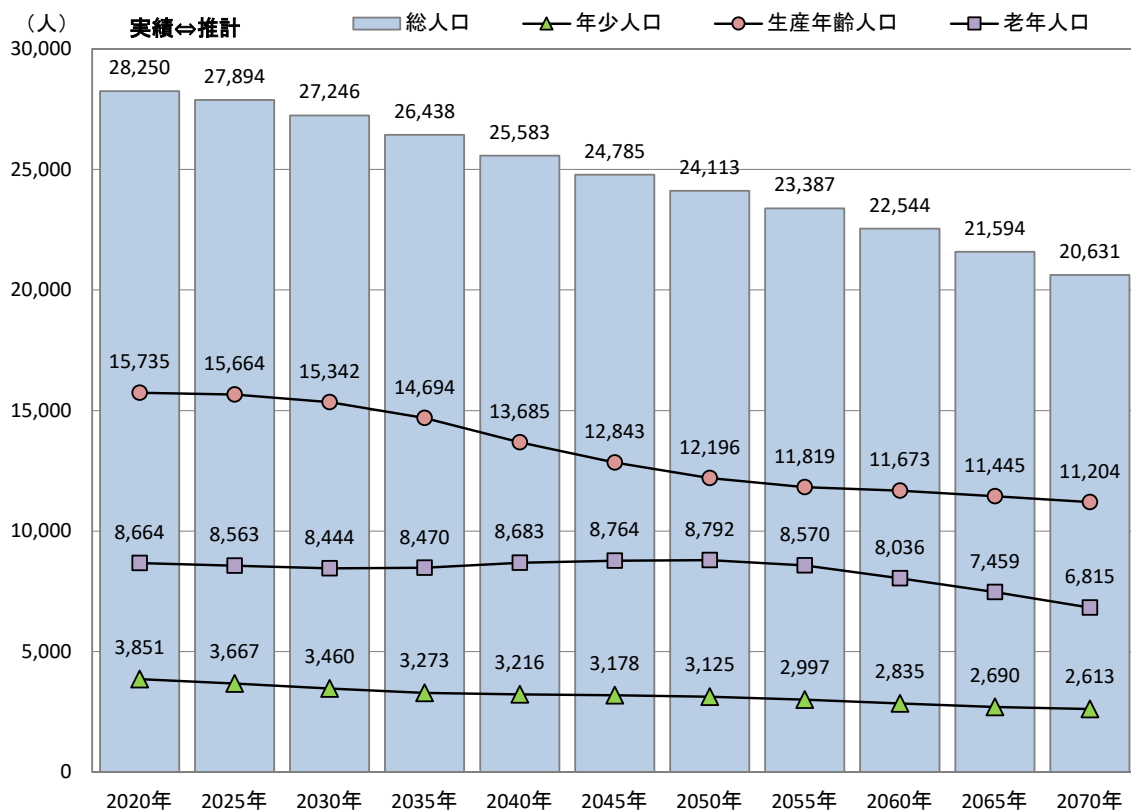
① 趨勢人口と戦略人口について

- 人口ビジョンにおいて設定する「戦略人口」は、総合戦略による戦略的な人口減少対策の取組みの結果として達成が見込まれる将来人口です。
- 一方、「趨勢(すうせい)人口」は、人口減少対策の取組み等による効果を想定せず、このままの流れですすんだ場合の将来人口です。
- 戦略人口、趨勢人口を設定することで、戦略の効果を確認することが可能となります。
- 人口ビジョンにおける戦略人口の推計シミュレーションはこれまで社人研推計を趨勢人口として採用してきましたが、国勢調査と住民基本台帳人口の乖離が大きいことから、目標と実績の進捗を随時確認するため、第 3 期人口ビジョンにおいては、住民基本台帳人口を用いたコーホート要因法(町独自推計)を採用することとします。



②趨勢人口の推計

- 総人口は、2020年から2070年までに7,619人(約27.0%)減少し、20,631人になると推計されます。
- 老年人口は、2020年から2070年までに1,849人(約21.3%)減少し、6,815人となりますが、人口全体の33.0%を占めるようになります。
- 生産年齢人口は、2020年から2070年までに4,531人(約28.8%)減少し、11,204人に、年少人口は1,238人(約32.2%)減少し、2,613人になると推計されます。



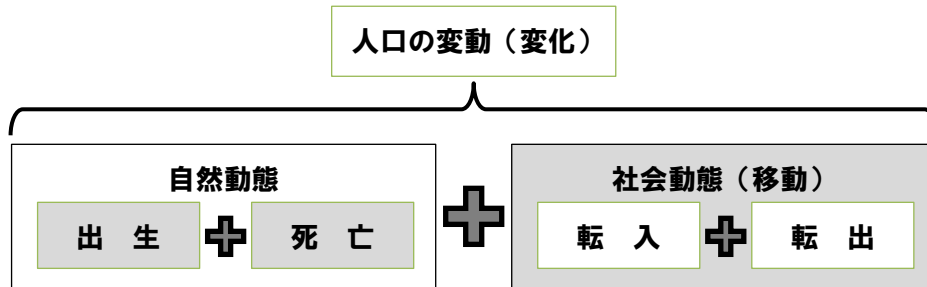
※端数処理しているため、合計が一致しない場合があります。

	2020年 (令和2)	2025年 (令和7)	2030年 (令和12)	2035年 (令和17)	2040年 (令和22)	2045年 (令和27)	2050年 (令和32)	2055年 (令和37)	2060年 (令和42)	2065年 (令和47)	2070年 (令和52)
総人口(人)	28,250	27,894	27,246	26,438	25,583	24,785	24,113	23,387	22,544	21,594	20,631
年少人口(%)	13.6	13.1	12.7	12.4	12.6	12.8	13.0	12.8	12.6	12.5	12.7
生産年齢人口(%)	55.7	56.2	56.3	55.6	53.5	51.8	50.6	50.5	51.8	53.0	54.3
老年人口(%)	30.7	30.7	31.0	32.0	33.9	35.4	36.5	36.6	35.6	34.5	33.0

(3) 趨勢人口をふまえた将来人口のシミュレーション

① 将来人口の推計方法

人口の変動(変化)は、出生・死亡・移動の3つの要素の変化によるものです。



推計方法はコーホート要因法によるものとしますが、これは男女別年齢別人口集団(コーホート)に対して、出生・死亡・社会移動(転入－転出)の係数を設定し、将来にわたって積み上げ計算を行うことによる推計です。

本推計では、地方人口ビジョン策定にむけて国が配付している人口推計ワークシートを活用しながら趨勢人口推計および2パターンのシミュレーション推計を行います。

斑鳩町の将来人口推計における諸要素の考え方

項目	説明
推計に用いる人口	基準人口(推計の出発点とする人口)は、2021年1月1日時点の住民基本台帳人口とする。
推計期間	2025年から2070年までの5年ごとの人口(性別年齢(5歳階級)別人口)を推計する。
生残率(死亡率)	全国の生残率(性別年齢別)将来値(社人研による推計値)を採用する。

	趨勢人口	シミュレーション1	シミュレーション2
出生率	社人研推計値を採用	合計特殊出生率は、2025年まで社人研推計値、その後2030年に1.73(町民希望出生率)まで上昇、さらに2040年には2.1(人口置換水準)にまで上昇すると仮定。(2040年以降は2.1を維持)	合計特殊出生率は、2025年まで社人研推計値、その後2030年までに2.1(人口置換水準)まで上昇すると仮定。 (2035年以降は2.1を維持)
純移動率	2018/1/1～2023/1/1の住民基本台帳による変化率から2020→2025を設定。2025→2030は純移動率をその1/2に設定。その後推計期間中維持する。		2018/1/1～2023/1/1の住民基本台帳による変化率から設定。推計期間中維持する。

※町民希望出生率については、国民希望出生率に準拠し、第1期斑鳩町人口ビジョンにおいて次のような手法により算出しています。

$$\begin{aligned}
 \text{斑鳩町民希望出生率} &= (\text{有配偶者割合} \times \text{夫婦の予定子ども数} + \text{独身者割合} \times \text{独身者の結婚希望者割合} \times \text{独身者の希望子ども数}) \times \text{離死別等の影響} \\
 &= (36.8\% \times 2.01人 + 63.2\% \times 78.9\% \times 2.21人) \times 0.938 \\
 &= 1.73人
 \end{aligned}$$

[有配偶者割合] 国勢調査(平成22年)による20～34歳女性の有配偶者割合

[夫婦の予定子ども数] 町アンケート(平成27年)結果より、49歳以下の既婚者(事実婚を含む)が“将来的に持つ予定の子どもの数”の平均を算出

[独身者割合] 国勢調査(平成22年)による20～34歳女性の独身者割合

[独身者の結婚希望者割合] 町アンケート(平成27年)結果より、49歳以下の独身(婚姻歴ありを含む)女性のうち、“結婚の予定がある”または“結婚の予定はないが、結婚したい”と回答した人の割合を算出

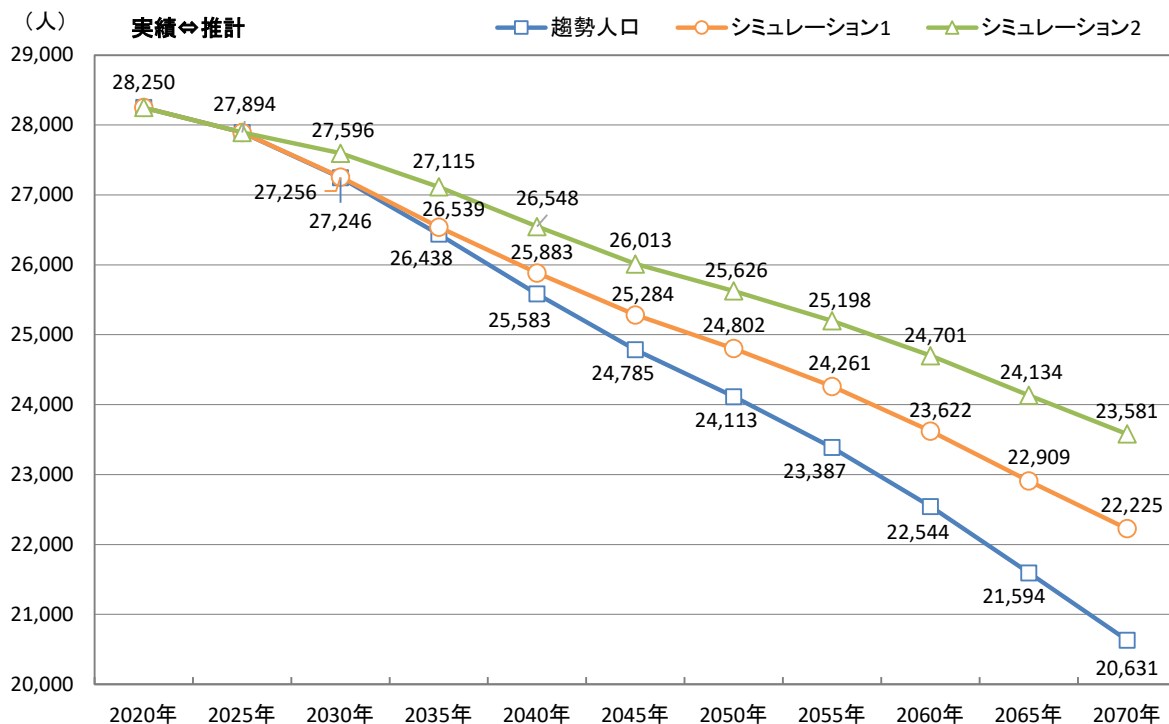
[独身者の希望子ども数] 町アンケート(平成27年)結果より、49歳以下の独身(婚姻歴ありを含む)女性で“結婚の予定がある”または“結婚の予定はないが、結婚したい”と回答した人の“理想的な子どもの数”の平均を算出

[離死別等の影響] 国採用値による

②シミュレーションの結果

シミュレーションの結果は、2070年において趨勢人口では20,631人程度が見込まれるのに対して、シミュレーション1では22,225人、シミュレーション2では23,581人となっています。

各推計シミュレーションの比較



(単位:人)

	2020年 (令和2)	2025年 (令和7)	2030年 (令和12)	2035年 (令和17)	2040年 (令和22)	2045年 (令和27)	2050年 (令和32)	2055年 (令和37)	2060年 (令和42)	2065年 (令和47)	2070年 (令和52)
趨勢人口	28,250	27,894	27,246	26,438	25,583	24,785	24,113	23,387	22,544	21,594	20,631
シミュレーション1	28,250	27,894	27,256	26,539	25,883	25,284	24,802	24,261	23,622	22,909	22,225
シミュレーション2	28,250	27,894	27,596	27,115	26,548	26,013	25,626	25,198	24,701	24,134	23,581

③出生数の見通し

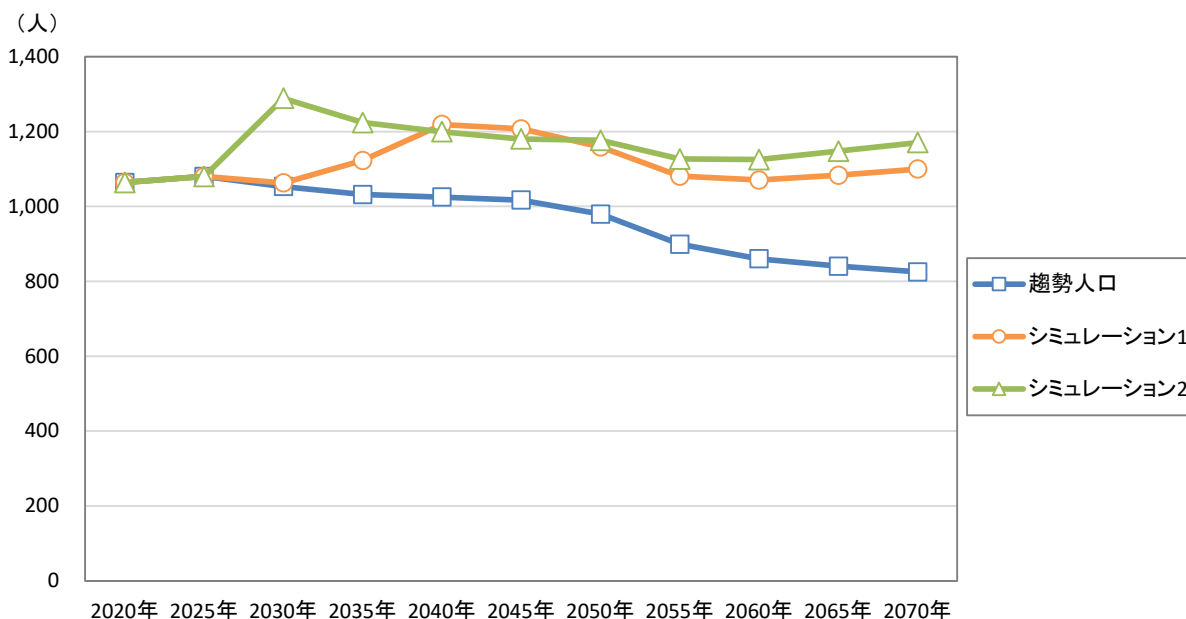
出生については、次のような合計特殊出生率の仮定に基づいています。

合計特殊出生率

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	1.51	1.67	1.71	1.76	1.77	1.77	1.78	1.78	1.78	1.78	1.78
シミュレーション1	1.51	1.67	1.73	1.92	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
シミュレーション2	1.51	1.67	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10

- 趨勢人口では、2025年以降の合計特殊出生率が1.67～1.78で仮定されていますが、出産を担う若い女性人口の減少に伴い、出生数は年々減少していくことが見込まれます。
- シミュレーション1では2025年に1.67で、2030年に町民希望出生率である1.73に上昇し、さらに2040年には2.10に達し、その後2.10を維持すると仮定します。シミュレーション2では2030年までに人口置換水準である2.10に達し、その後2.10を維持すると仮定します。こうした出生率の上昇により、出生数は2040年以降、安定的に推移します。

出生数



【出生数】

(単位:人)

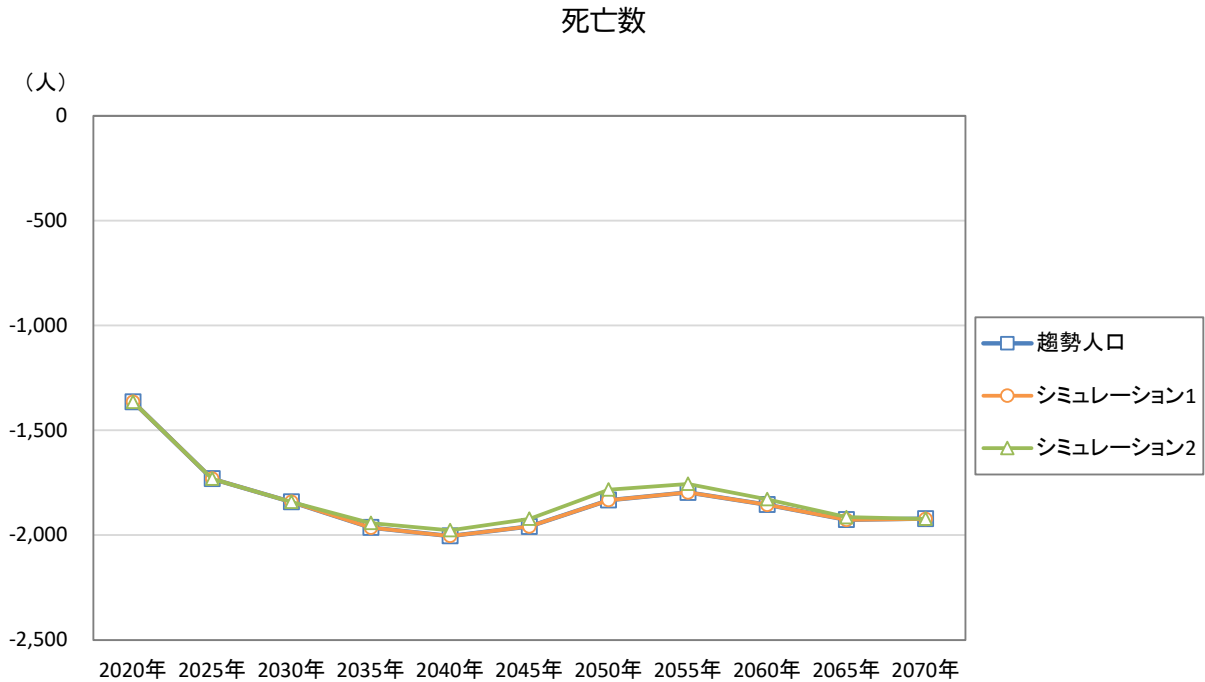
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	1,064	1,080	1,053	1,032	1,025	1,017	979	899	860	840	825
シミュレーション1	1,064	1,080	1,063	1,123	1,219	1,207	1,159	1,081	1,071	1,083	1,100
シミュレーション2	1,064	1,080	1,289	1,224	1,200	1,180	1,177	1,127	1,125	1,148	1,170

※数値は5年間計

④死亡数の見通し

死亡数については、趨勢人口や各シミュレーションにおいて、いずれも社人研推計の生残率の設定を採用しています。社人研設定においては、既に将来における平均余命の延伸等が織り込み済みとなっています。

したがって、趨勢人口や各シミュレーションにおける死亡数の差異は、出生数や移動数の違いに基づくものです。



【死亡数】

(単位:人)

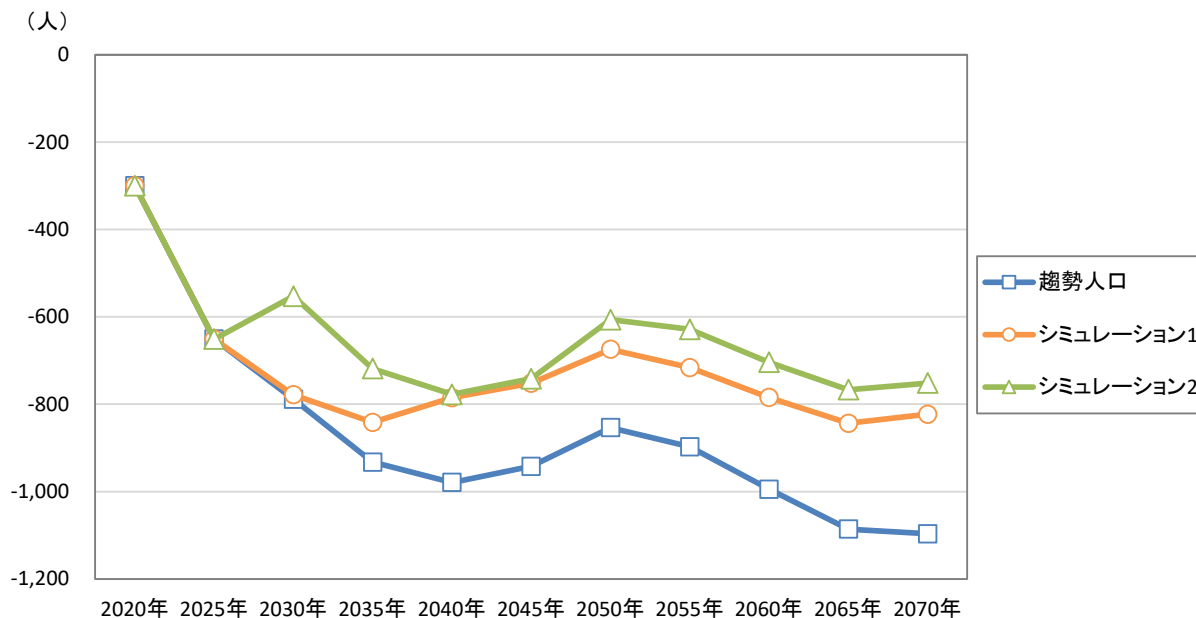
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	-1,364	-1,731	-1,842	-1,964	-2,004	-1,959	-1,833	-1,796	-1,855	-1,926	-1,922
シミュレーション1	-1,364	-1,731	-1,842	-1,964	-2,004	-1,959	-1,833	-1,797	-1,855	-1,927	-1,923
シミュレーション2	-1,364	-1,731	-1,842	-1,943	-1,977	-1,922	-1,783	-1,756	-1,829	-1,915	-1,922

※数値は5年間計

⑤自然動態の見通し

出生数と死亡数を合わせた自然動態については、出生数が安定的に推移するシミュレーション 1.2 では減少が抑制されると見込まれます。

自然動態



【自然動態】

(単位:人)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	-300	-651	-789	-932	-979	-942	-854	-897	-995	-1,086	-1,097
シミュレーション1	-300	-651	-779	-842	-785	-752	-674	-716	-785	-844	-823
シミュレーション2	-300	-651	-553	-719	-777	-742	-607	-629	-704	-767	-751

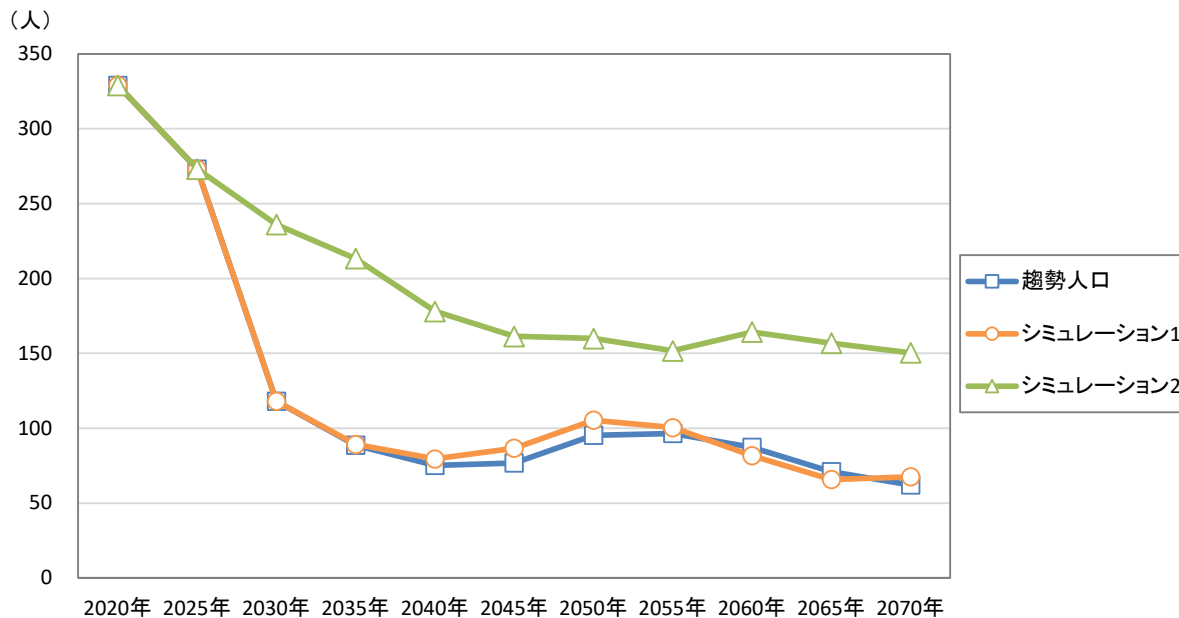
※数値は5年間計

⑥社会動態の見通し

趨勢人口及び各シミュレーションは、住民基本台帳の人口推移が減衰するという仮定を反映した結果となっていますが、転出超過にはならない見込みです。

シミュレーション2では、住民基本台帳の人口推移が持続すると想定しており、転入超過は緩やかに減少し 2045 年以降は均衡していきます。

社会動態



【社会動態】

(単位:人)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	329	273	118	89	75	77	95	97	87	71	62
シミュレーション1	329	273	118	89	80	87	105	100	82	66	68
シミュレーション2	329	273	236	213	178	161	160	152	164	157	150

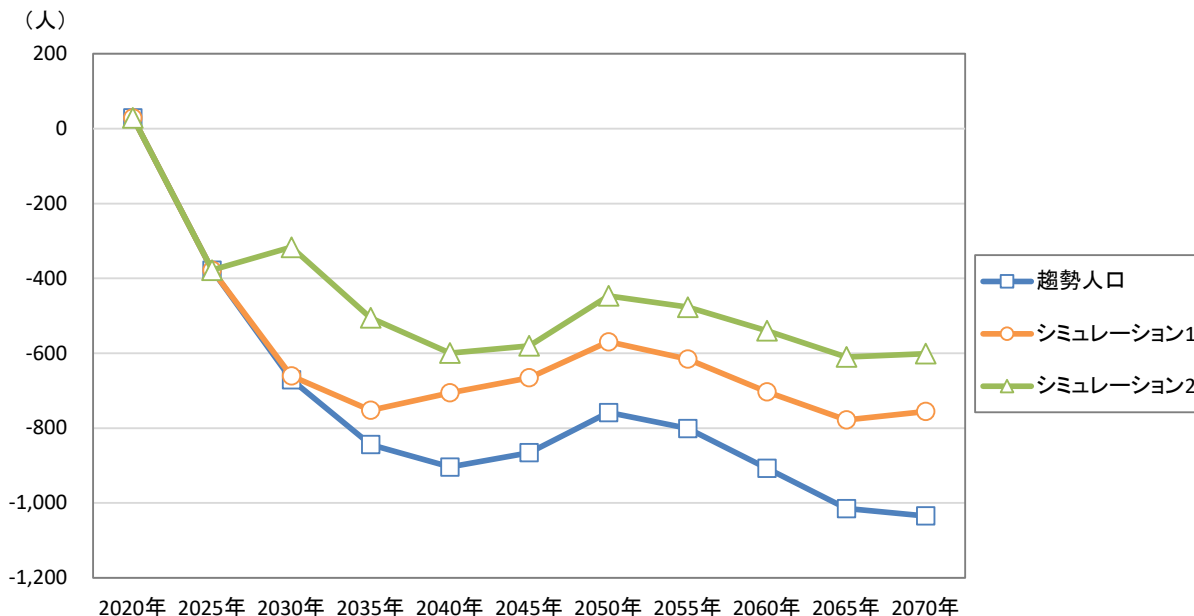
※数値は5年間計

⑦自然動態+社会動態の見通し

自然動態と社会動態を合わせた推移については、出生数が安定的に推移する時期から減少が抑制されると見込まれます。

人口減少の抑制が最も大きいのはシミュレーション2であり、次いでシミュレーション1となります。

自然動態+社会動態(=人口変化量)



【自然動態+社会動態】

(単位:人)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	29	-378	-670	-844	-904	-865	-758	-801	-907	-1,015	-1,034
シミュレーション1	29	-378	-661	-752	-706	-665	-569	-616	-703	-778	-756
シミュレーション2	29	-378	-317	-505	-599	-580	-447	-477	-540	-610	-601

※数値は5年間計

⑧年齢構造の見直し

推計結果について、年齢構造別に示すと次のとおりです。

【年齢構造別人口】

(単位:人)

		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	総数	28,250	27,894	27,246	26,438	25,583	24,785	24,113	23,387	22,544	21,594	20,631
	0～14歳	3,851	3,667	3,460	3,273	3,216	3,178	3,125	2,997	2,835	2,690	2,613
	15～39歳	6,576	6,230	6,072	6,104	5,973	5,904	5,623	5,399	5,204	5,102	4,944
	40～64歳	9,159	9,433	9,269	8,591	7,712	6,939	6,573	6,420	6,468	6,342	6,259
	65～74歳	4,066	3,159	2,988	3,335	3,824	3,886	3,531	3,068	2,571	2,377	2,337
	75歳以上	4,598	5,403	5,457	5,135	4,858	4,878	5,261	5,501	5,465	5,082	4,478
シミュレーション1	総数	28,250	27,894	27,256	26,539	25,883	25,284	24,802	24,261	23,622	22,909	22,225
	0～14歳	3,851	3,667	3,470	3,375	3,515	3,667	3,709	3,568	3,425	3,344	3,363
	15～39歳	6,576	6,230	6,072	6,104	5,973	5,914	5,728	5,703	5,693	5,763	5,777
	40～64歳	9,159	9,433	9,269	8,591	7,712	6,939	6,573	6,420	6,468	6,342	6,270
	65～74歳	4,066	3,159	2,988	3,335	3,824	3,886	3,531	3,068	2,571	2,377	2,337
	75歳以上	4,598	5,403	5,457	5,135	4,858	4,878	5,261	5,501	5,465	5,082	4,478
シミュレーション2	総数	28,250	27,894	27,596	27,115	26,548	26,013	25,626	25,198	24,701	24,134	23,581
	0～14歳	3,851	3,667	3,759	3,834	3,971	3,853	3,802	3,726	3,666	3,631	3,677
	15～39歳	6,576	6,230	6,039	5,997	5,785	5,965	5,933	5,923	5,939	6,051	5,884
	40～64歳	9,159	9,433	9,373	8,837	8,136	7,449	7,062	6,854	6,818	6,592	6,753
	65～74歳	4,066	3,159	2,981	3,327	3,834	3,924	3,609	3,201	2,773	2,681	2,618
	75歳以上	4,598	5,403	5,445	5,120	4,821	4,822	5,220	5,494	5,505	5,178	4,649

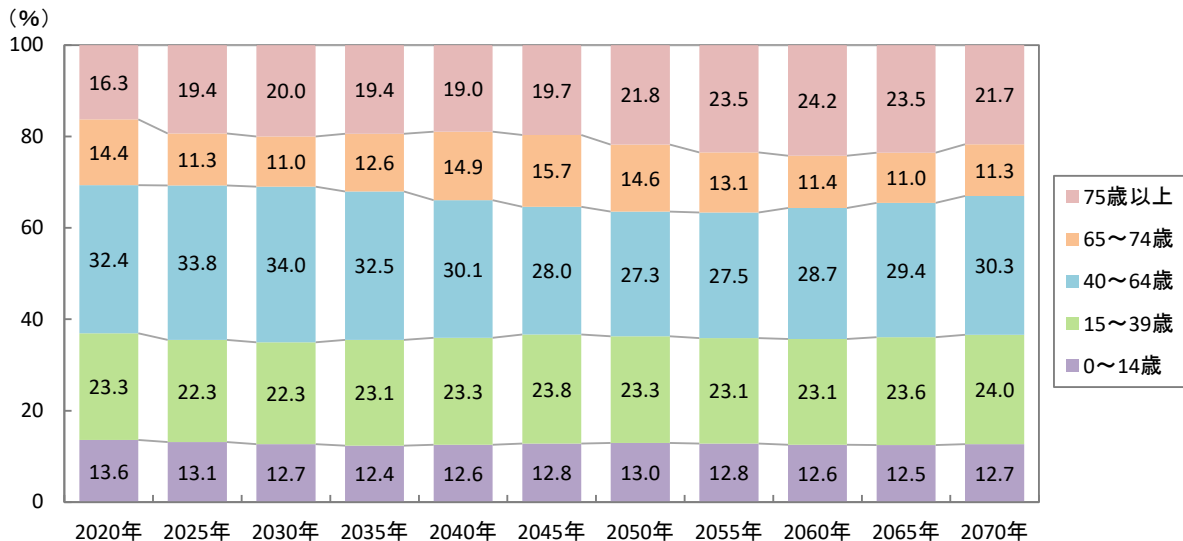
※端数処理しているため、合計が一致しない場合があります。

【年齢構造別人口構成比】

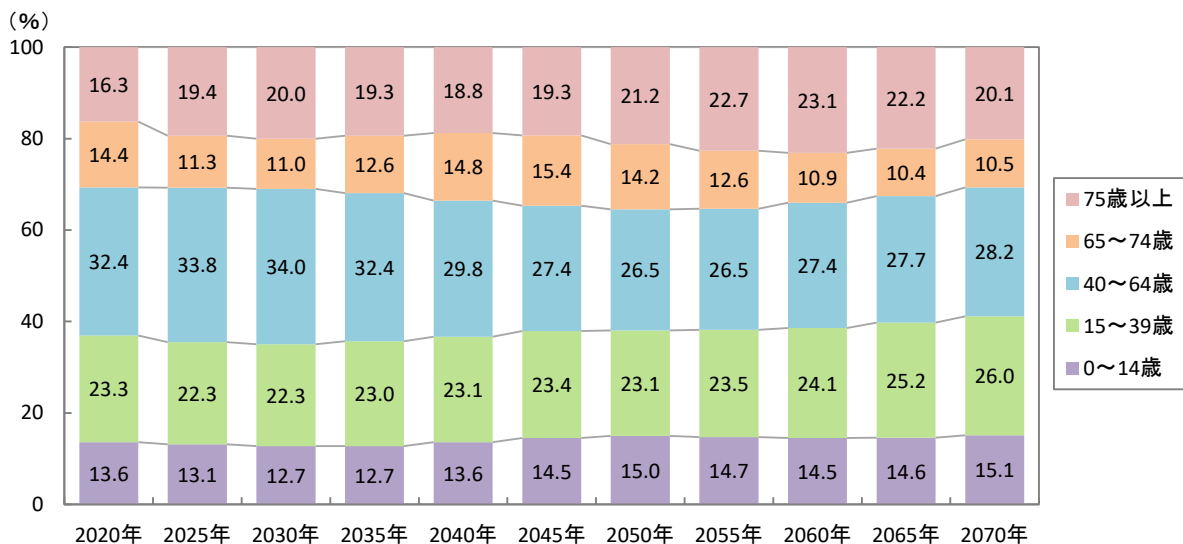
		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	総数(人)	28,250	27,894	27,246	26,438	25,583	24,785	24,113	23,387	22,544	21,594	20,631
	0～14歳	13.6%	13.1%	12.7%	12.4%	12.6%	12.8%	13.0%	12.8%	12.6%	12.5%	12.7%
	15～39歳	23.3%	22.3%	22.3%	23.1%	23.3%	23.8%	23.3%	23.1%	23.1%	23.6%	24.0%
	40～64歳	32.4%	33.8%	34.0%	32.5%	30.1%	28.0%	27.3%	27.5%	28.7%	29.4%	30.3%
	65～74歳	14.4%	11.3%	11.0%	12.6%	14.9%	15.7%	14.6%	13.1%	11.4%	11.0%	11.3%
	75歳以上	16.3%	19.4%	20.0%	19.4%	19.0%	19.7%	21.8%	23.5%	24.2%	23.5%	21.7%
シミュレーション1	総数(人)	28,250	27,894	27,256	26,539	25,883	25,284	24,802	24,261	23,622	22,909	22,225
	0～14歳	13.6%	13.1%	12.7%	12.7%	13.6%	14.5%	15.0%	14.7%	14.5%	14.6%	15.1%
	15～39歳	23.3%	22.3%	22.3%	23.0%	23.1%	23.4%	23.1%	23.5%	24.1%	25.2%	26.0%
	40～64歳	32.4%	33.8%	34.0%	32.4%	29.8%	27.4%	26.5%	26.5%	27.4%	27.7%	28.2%
	65～74歳	14.4%	11.3%	11.0%	12.6%	14.8%	15.4%	14.2%	12.6%	10.9%	10.4%	10.5%
	75歳以上	16.3%	19.4%	20.0%	19.3%	18.8%	19.3%	21.2%	22.7%	23.1%	22.2%	20.1%
シミュレーション2	総数(人)	28,250	27,894	27,596	27,115	26,548	26,013	25,626	25,198	24,701	24,134	23,581
	0～14歳	13.6%	13.1%	13.6%	14.1%	15.0%	14.8%	14.8%	14.8%	14.8%	15.0%	15.6%
	15～39歳	23.3%	22.3%	21.9%	22.1%	21.8%	22.9%	23.2%	23.5%	24.0%	25.1%	25.0%
	40～64歳	32.4%	33.8%	34.0%	32.6%	30.6%	28.6%	27.6%	27.2%	27.6%	27.3%	28.6%
	65～74歳	14.4%	11.3%	10.8%	12.3%	14.4%	15.1%	14.1%	12.7%	11.2%	11.1%	11.1%
	75歳以上	16.3%	19.4%	19.7%	18.9%	18.2%	18.5%	20.4%	21.8%	22.3%	21.5%	19.7%

※端数処理しているため、合計が一致しない場合があります。

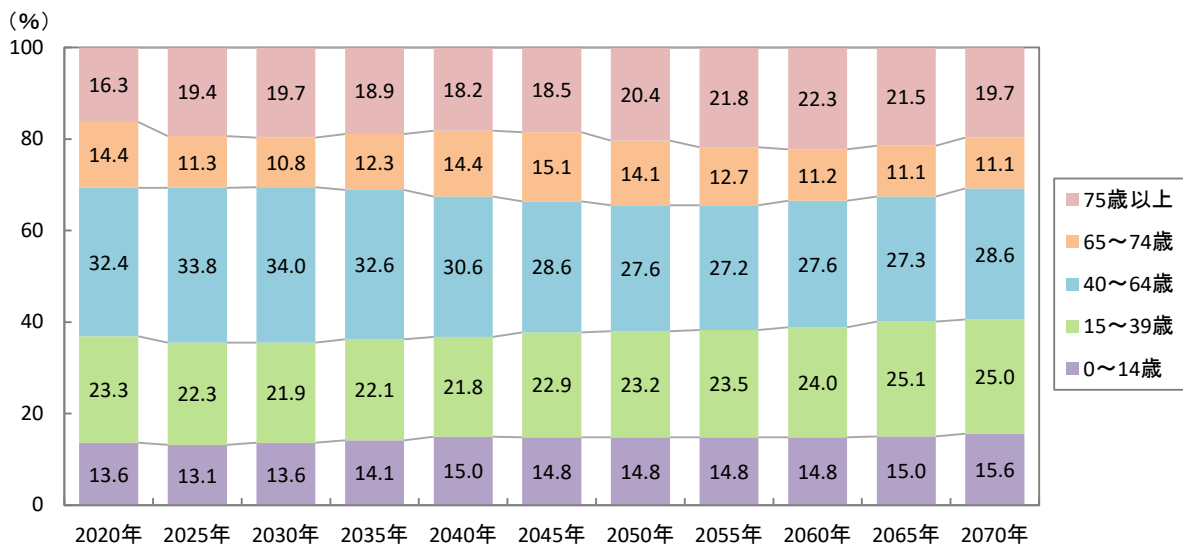
趨勢人口：年齡構成比



シミュレーション 1：年齡構成比



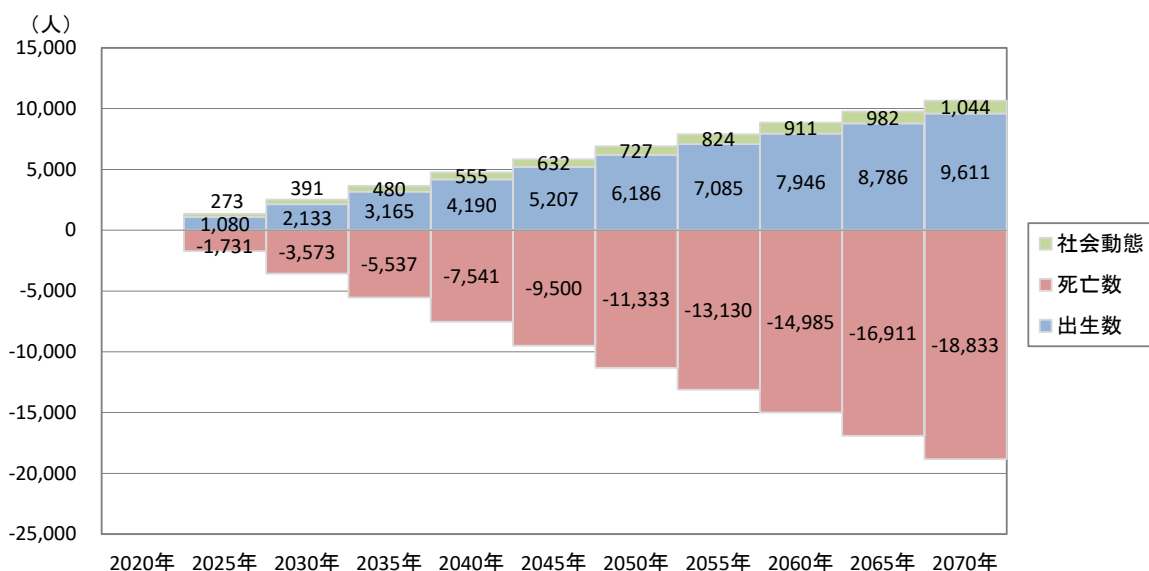
シミュレーション 2：年齡構成比



(4) 将来人口のシミュレーションをふまえた課題

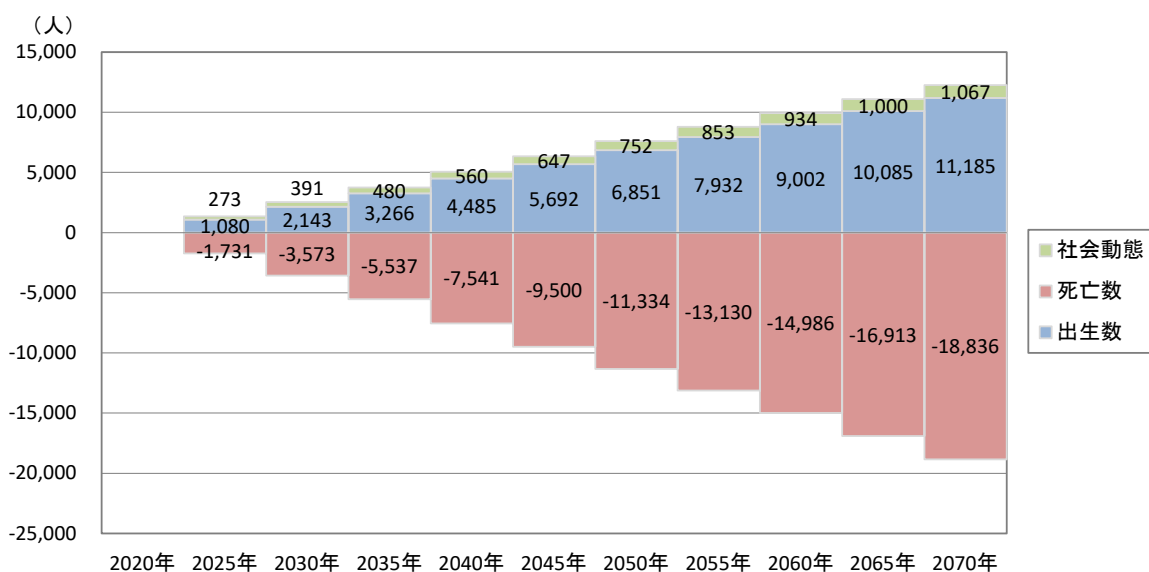
- 趨勢人口として、2020年から2070年までの50年間で8,200人程度の人口減少が見込まれますが、その減少の主因は死亡によるものです。
- 下図に示すとおり、50年間で計18,800人程度の死亡が見込まれています。

趨勢人口：人口変化ストック量



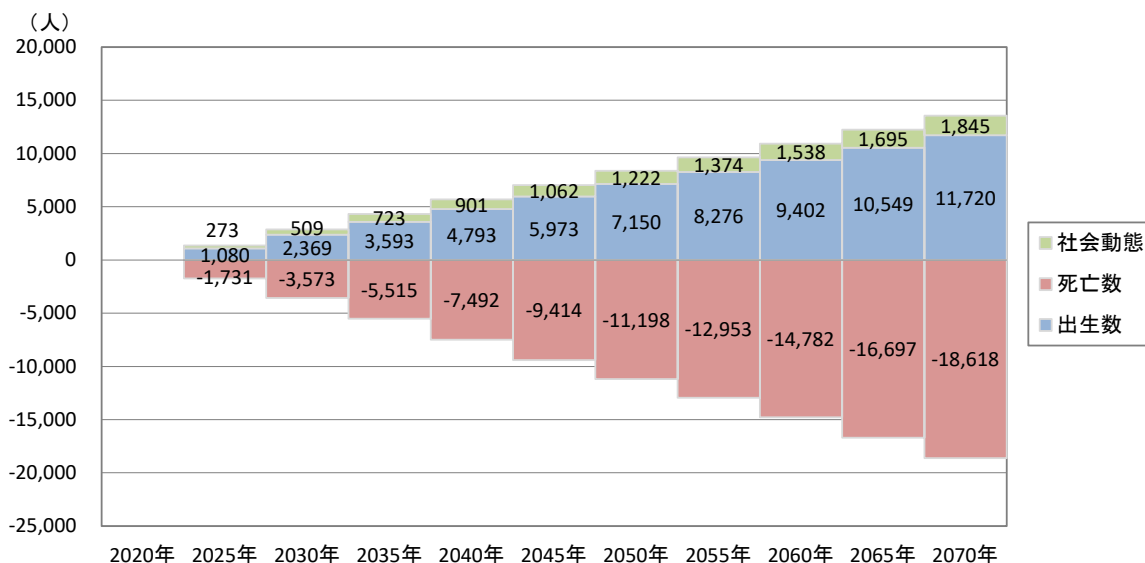
- シミュレーション1では出生数のストックが趨勢人口より多く見込まれます。

シミュレーション1：人口変化ストック量



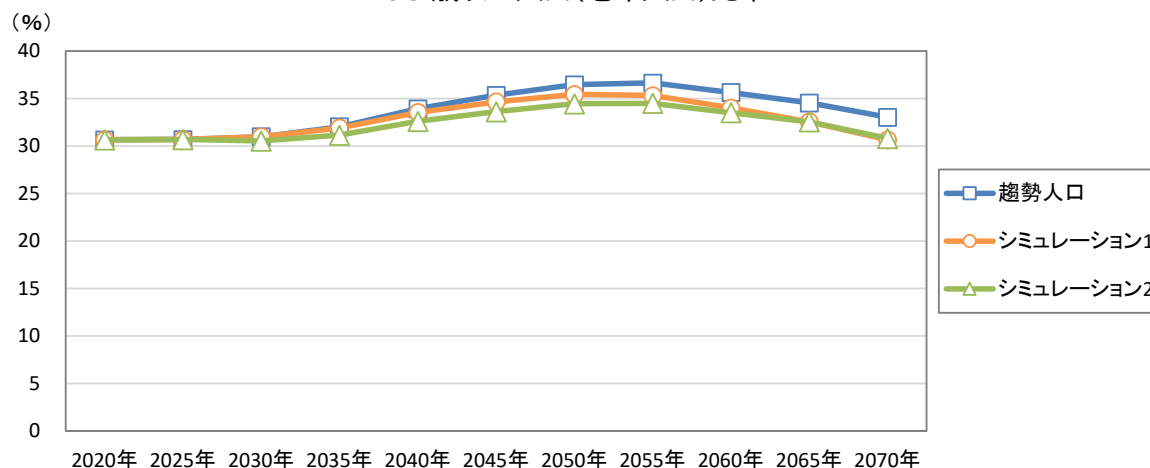
- シミュレーション2では出生数と社会動態によるストックが趨勢人口、シミュレーション1より多く見込まれます。

シミュレーション2:人口変化ストック量



- 高齢化した人口構造を背景に、死亡数を大きく減少させることは困難と考えられ、したがって、今後の人口政策としては、出生数の増加並びに転入促進・転出抑制が重要になってきます。
- 趨勢人口としての老年人口は2050年に8,800人程度でピークを迎えることが想定されており、高齢化率(老年人口比率)も2055年くらいまでは上昇していくことが見込まれています。

65歳以上人口(老年人口)比率

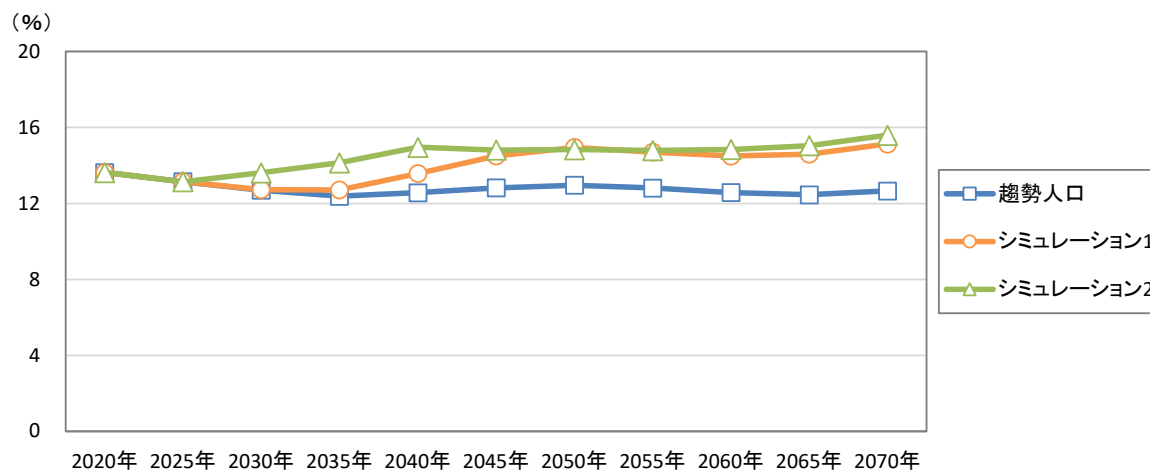


【65歳以上人口比率】

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	30.7%	30.7%	31.0%	32.0%	33.9%	35.4%	36.5%	36.6%	35.6%	34.5%	33.0%
シミュレーション1	30.7%	30.7%	31.0%	31.9%	33.5%	34.7%	35.4%	35.3%	34.0%	32.6%	30.7%
シミュレーション2	30.7%	30.7%	30.5%	31.2%	32.6%	33.6%	34.5%	34.5%	33.5%	32.6%	30.8%

- 出生動向については、趨勢人口で仮定された合計特殊出生率の水準を上回るような少子化対策として、これまで以上に充実した取り組みが必要になってくるものと考えられます。
- シミュレーション1、2で想定したような合計特殊出生率上昇の効果として、趨勢人口では2070年の年少人口比率が12.7%となるのに対し、シミュレーション1、2では15%以上の水準にまで上昇させることが可能です。

0～14 歳人口(年少人口)比率

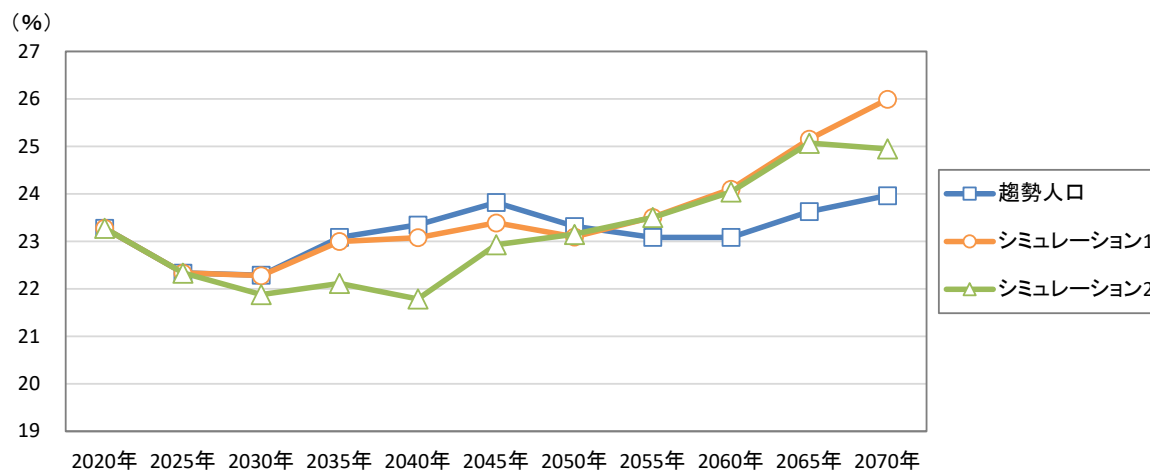


【0～14 歳人口比率】

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	13.6%	13.1%	12.7%	12.4%	12.6%	12.8%	13.0%	12.8%	12.6%	12.5%	12.7%
シミュレーション1	13.6%	13.1%	12.7%	12.7%	13.6%	14.5%	15.0%	14.7%	14.5%	14.6%	15.1%
シミュレーション2	13.6%	13.1%	13.6%	14.1%	15.0%	14.8%	14.8%	14.8%	14.8%	15.0%	15.6%

- また、若年層(15～39歳)を含む生産年齢人口(15～64歳)についても、シミュレーション1、2では趨勢人口を上回る水準が確保され、従属人口指数(生産年齢人口に対する年少人口と老年人口の比率)が概ね低く抑えられます。

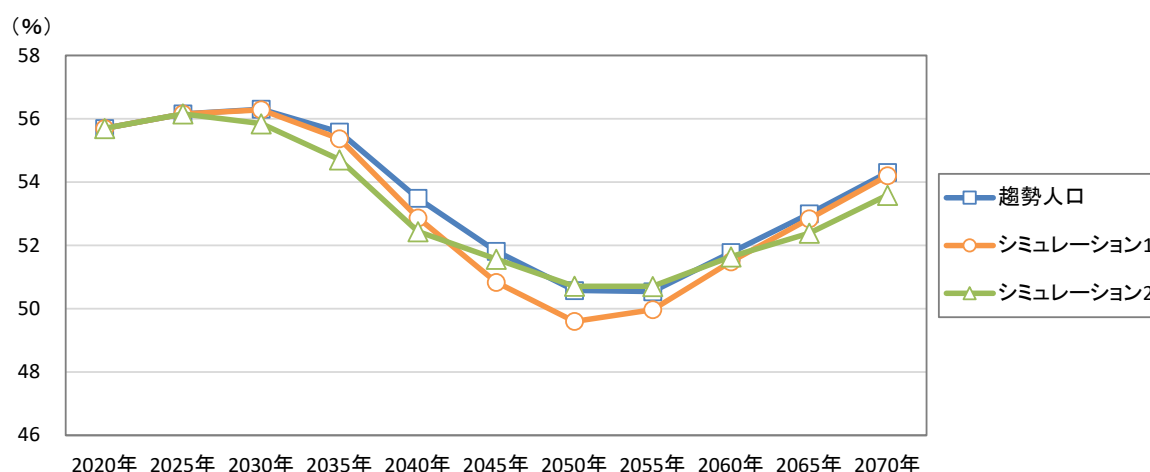
15～39歳人口比率



【15～39歳人口比率】

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	23.3%	22.3%	22.3%	23.1%	23.3%	23.8%	23.3%	23.1%	23.1%	23.6%	24.0%
シミュレーション1	23.3%	22.3%	22.3%	23.0%	23.1%	23.4%	23.1%	23.5%	24.1%	25.2%	26.0%
シミュレーション2	23.3%	22.3%	21.9%	22.1%	21.8%	22.9%	23.2%	23.5%	24.0%	25.1%	25.0%

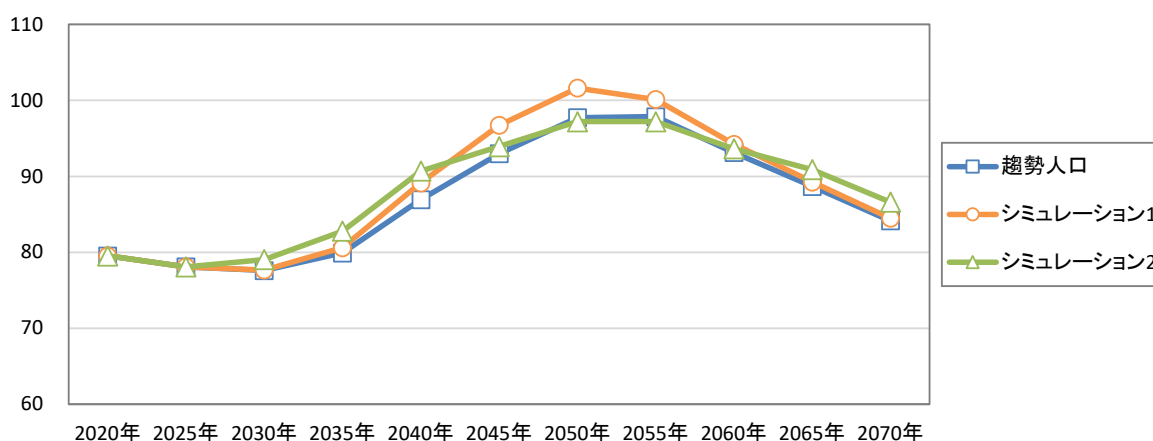
15～64歳人口(生産年齢人口)比率



【15～64歳人口比率】

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	55.7%	56.2%	56.3%	55.6%	53.5%	51.8%	50.6%	50.5%	51.8%	53.0%	54.3%
シミュレーション1	55.7%	56.2%	56.3%	55.4%	52.9%	50.8%	49.6%	50.0%	51.5%	52.8%	54.2%
シミュレーション2	55.7%	56.2%	55.8%	54.7%	52.4%	51.6%	50.7%	50.7%	51.6%	52.4%	53.6%

従属人口指数



【従属人口指数】

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	79.5	78.1	77.6	79.9	86.9	93.0	97.7	97.9	93.1	88.7	84.1
シミュレーション1	79.5	78.1	77.7	80.6	89.1	96.7	101.6	100.1	94.2	89.3	84.5
シミュレーション2	79.5	78.1	79.1	82.8	90.7	93.9	97.2	97.2	93.6	90.9	86.6

- 年少人口比率の増加や生産年齢人口比率の減少抑制の効果もあって、シミュレーション1、2では趨勢人口よりも高齢化率を抑制することができます。
(2070年の高齢化率 趨勢人口:33.0%、シミュレーション1:30.7%、シミュレーション2:30.8%)
- 地域における人口規模の大幅な縮小は、地域における消費活動を減退させるだけでなく、労働に従事する人口の減少の結果として地域における経済規模が縮小し、日常生活におけるさまざまなサービス・利便性が低下していくとともに、都市機能・生活機能の低下により、転出がすすみ、人口減少に拍車がかかる悪循環に陥ることが懸念されます。
- 国及び地方が一体となって、出生数の増加並びに転入促進・転出抑制、健康寿命の延伸をはかる必要があります。
- また、人口規模だけの問題ではなく、将来の人口の年齢構造の問題についても捉えておくことが重要です。このまま少子高齢化の傾向が続くことは、高齢介護等をはじめとするサービスの需要・供給量の構造的な不均衡を生じさせかねません。
- 長期的に安定的な人口規模を維持するという観点からも少子高齢化を抑制し、持続可能な人口構造の構築に取り組む必要があります。

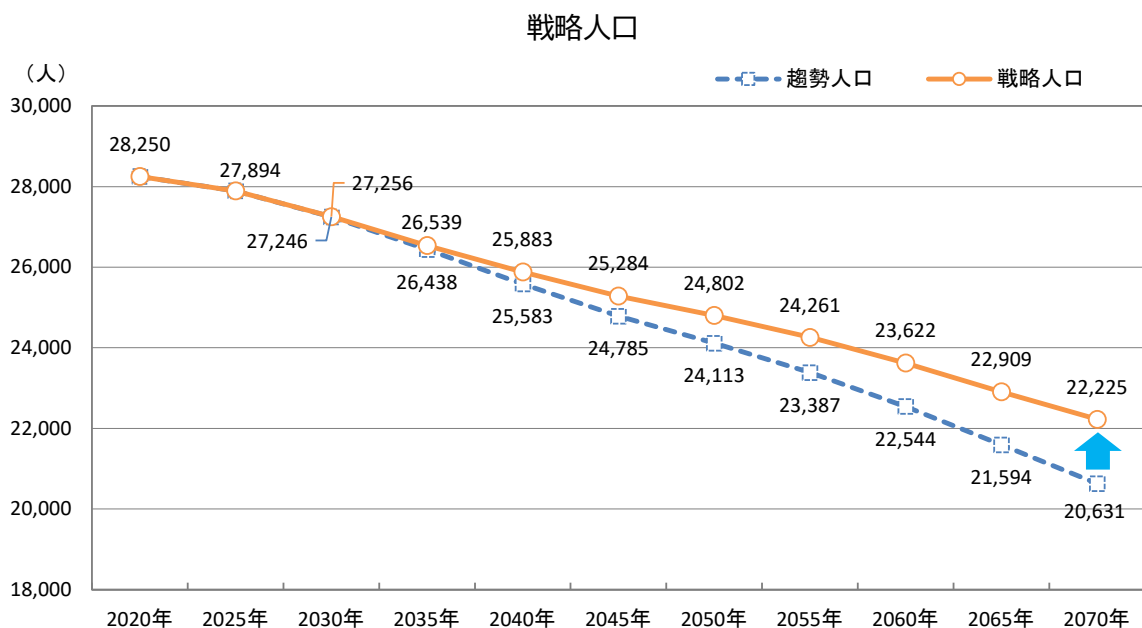
第2章 斑鳩町における人口の将来展望

2-1めざすべき戦略人口と将来展望

(1)斑鳩町の戦略人口

- 本町の人口動向や将来人口シミュレーションの分析を通じ、このままでは本町の趨勢人口は2070年に20,600人程度にまで減少することが明らかになりました。
- 人口規模の縮小は、必ずしも弊害ばかりではないものと考えますが、趨勢人口では人口規模の縮小にともない、少子化・高齢化もさらにすすむこととなるため、本町の持続的・安定的な町政運営の観点やにぎわいと魅力のあるまちづくりをすすめていく観点などから、今後も、少子化対策や転入・定住の促進等の取組みにより、人口減少の抑制をはかるものとしします。
- これらの人口減少対策の取組みにより、2070年にめざすべき戦略人口として、人口シミュレーションのうち、町民希望出生率をふまえた出生率の上昇および社会移動が実情に即した値で推移するシミュレーション1の実現をめざします。

2070(令和52)年における戦略人口:22,200人



※端数処理しているため、戦略効果の算出結果が一致しない場合があります。

(単位: 人)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	28,250	27,894	27,246	26,438	25,583	24,785	24,113	23,387	22,544	21,594	20,631
戦略人口	28,250	27,894	27,256	26,539	25,883	25,284	24,802	24,261	23,622	22,909	22,225
戦略効果 (戦略人口-趨勢人口)		0	10	101	299	500	689	874	1,078	1,315	1,594

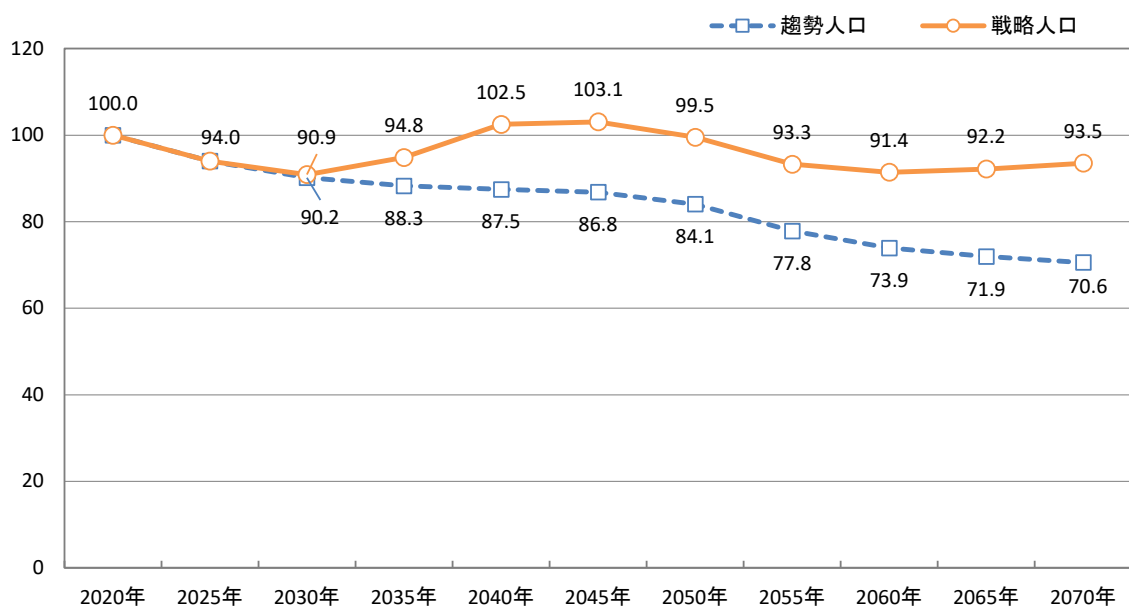
(2)戦略人口に基づく将来展望

①年齢構造の視点からみた将来展望

【未就学の子ども数】

- 子育て施策の主対象となる未就学の子ども数については、少子化の影響で2030年に2020年の90%程度にまで減少しますが、その後は合計特殊出生率の上昇等を背景に、2045年には103%程度まで回復するものと見込まれます。
- その後は、再び減少傾向となるものの、2055年以降、比較的安定的に推移することが見込まれます。
- 少子化抑制は人口問題の最大の課題であることを含め、子育て施策のさらなる充実が求められます。

未就学の子ども数(変化指数 2020年=100)



(単位:人)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	1,418	1,333	1,279	1,252	1,241	1,231	1,192	1,104	1,048	1,020	1,001
戦略人口	1,418	1,333	1,289	1,345	1,454	1,462	1,411	1,323	1,297	1,307	1,326

変化指数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	100.0	94.0	90.2	88.3	87.5	86.8	84.1	77.8	73.9	71.9	70.6
戦略人口	100.0	94.0	90.9	94.8	102.5	103.1	99.5	93.3	91.4	92.2	93.5

構成比	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	5.0%	4.8%	4.7%	4.7%	4.8%	5.0%	4.9%	4.7%	4.7%	4.7%	4.9%
戦略人口	5.0%	4.8%	4.7%	5.1%	5.6%	5.8%	5.7%	5.5%	5.5%	5.7%	6.0%

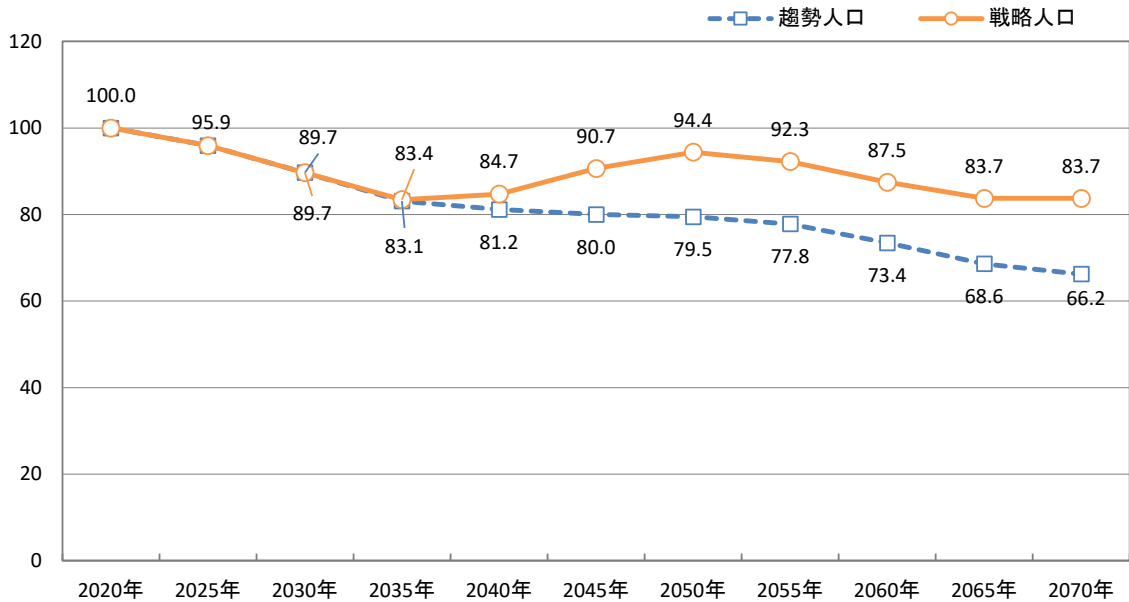
※将来人口シミュレーションでは、5歳別推計を行っているため、0～5歳人口については次のように算定しています。

$$0\sim 5\text{歳人口} = [\text{推計された } 0\sim 4\text{歳人口}] + [\text{推計された } 5\sim 9\text{歳人口} \times 1/5]$$

【小・中学生数(6～14歳)】

- 義務教育の小・中学生数については、2035年には2020年の83%程度になりますが、その後は合計特殊出生率の上昇等を背景とした未就学の子ども数の回復に支えられ、2050年には94%程度まで回復するものと見込まれます。

小・中学生数(変化指数 2020年=100)



(単位:人)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	2,433	2,334	2,181	2,021	1,975	1,947	1,933	1,893	1,787	1,669	1,612
戦略人口	2,433	2,334	2,181	2,030	2,062	2,205	2,297	2,244	2,128	2,037	2,037

変化指数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	100.0	95.9	89.7	83.1	81.2	80.0	79.5	77.8	73.4	68.6	66.2
戦略人口	100.0	95.9	89.7	83.4	84.7	90.7	94.4	92.3	87.5	83.7	83.7

構成比	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	8.6%	8.4%	8.0%	7.6%	7.7%	7.9%	8.0%	8.1%	7.9%	7.7%	7.8%
戦略人口	8.6%	8.4%	8.0%	7.6%	8.0%	8.7%	9.3%	9.3%	9.0%	8.9%	9.2%

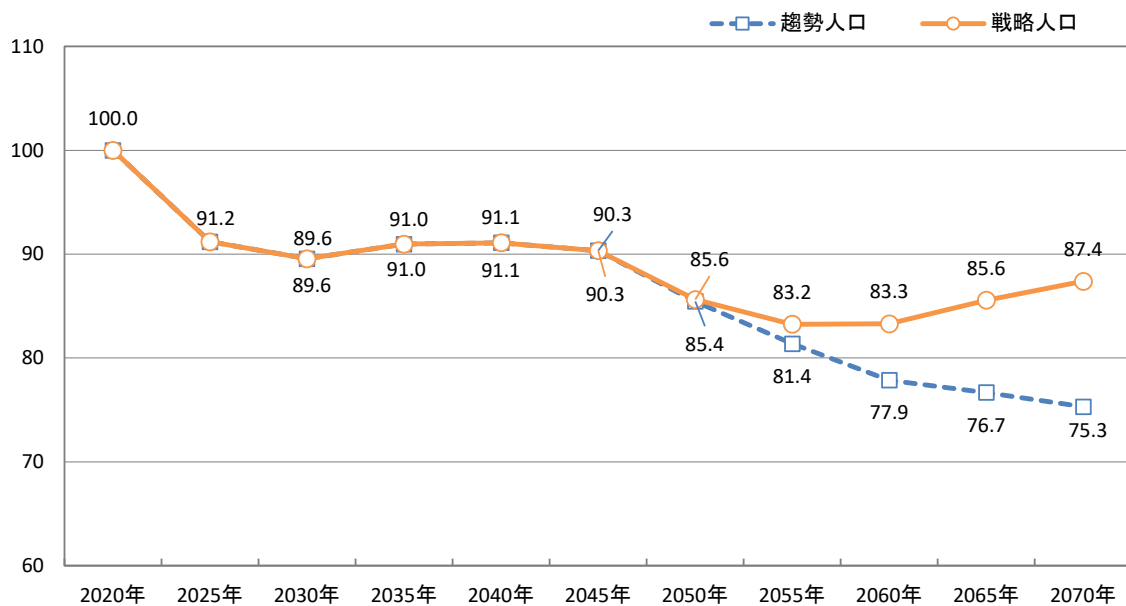
※将来人口シミュレーションでは、5歳別推計を行っているため、6～14歳人口については次のように算定しています。

$$6\sim 14\text{歳人口}=[\text{推計された}5\sim 9\text{歳人口}\times 4/5]+[\text{推計された}10\sim 14\text{歳人口}]$$

【20 歳代・30 歳代の人口】

- 少子化対策の観点から結婚・出産が最も期待される 20 歳代・30 歳代の人口については、2030 年には 2020 年の 90%程度にまで減少するものの、その後少子化対策の効果がこの年代にも現れ始め、2045 年まで比較的安定的に推移することが見込まれます。
- その後は、再び減少傾向となるものの、2055 年以降、比較的安定的に推移することが見込まれます。

20 歳代・30 歳代の人口(変化指数 2020 年=100)



(単位:人)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	5,308	4,841	4,754	4,829	4,835	4,795	4,536	4,319	4,133	4,070	3,997
戦略人口	5,308	4,841	4,754	4,829	4,835	4,795	4,545	4,419	4,421	4,542	4,639

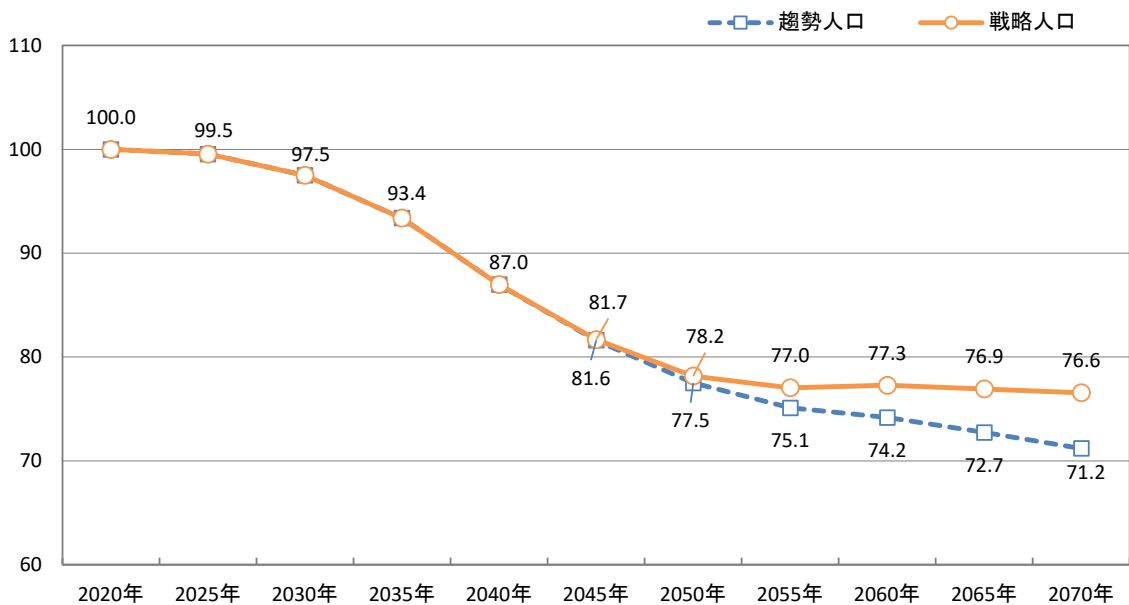
変化指数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	100.0	91.2	89.6	91.0	91.1	90.3	85.4	81.4	77.9	76.7	75.3
戦略人口	100.0	91.2	89.6	91.0	91.1	90.3	85.6	83.2	83.3	85.6	87.4

構成比	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	18.8%	17.4%	17.4%	18.3%	18.9%	19.3%	18.8%	18.5%	18.3%	18.8%	19.4%
戦略人口	18.8%	17.4%	17.4%	18.2%	18.7%	19.0%	18.3%	18.2%	18.7%	19.8%	20.9%

【生産年齢人口(15～64歳)】

- 本町における生産・消費といった経済活動の多くを担うことが期待される生産年齢人口については、今後も減少傾向で推移し、2055年には2020年の77%程度にまで減少しますが、その後は比較的安定的に推移するものと見込まれます。
- 人口構造に占める構成比でみると、2050年に50%程度にまで縮小した後は、上昇に転じて2070年には54%程度にまで回復する見込みです。
- 今後は、地域における雇用の創出をはかるとともに、経済規模の縮小を抑制するためにも生産性の向上についても力を入れていくことが重要です。

生産年齢人口(変化指数 2020年=100)



(単位:人)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	15,735	15,664	15,342	14,694	13,685	12,843	12,196	11,819	11,673	11,445	11,204
戦略人口	15,735	15,664	15,342	14,694	13,685	12,853	12,301	12,123	12,161	12,105	12,047

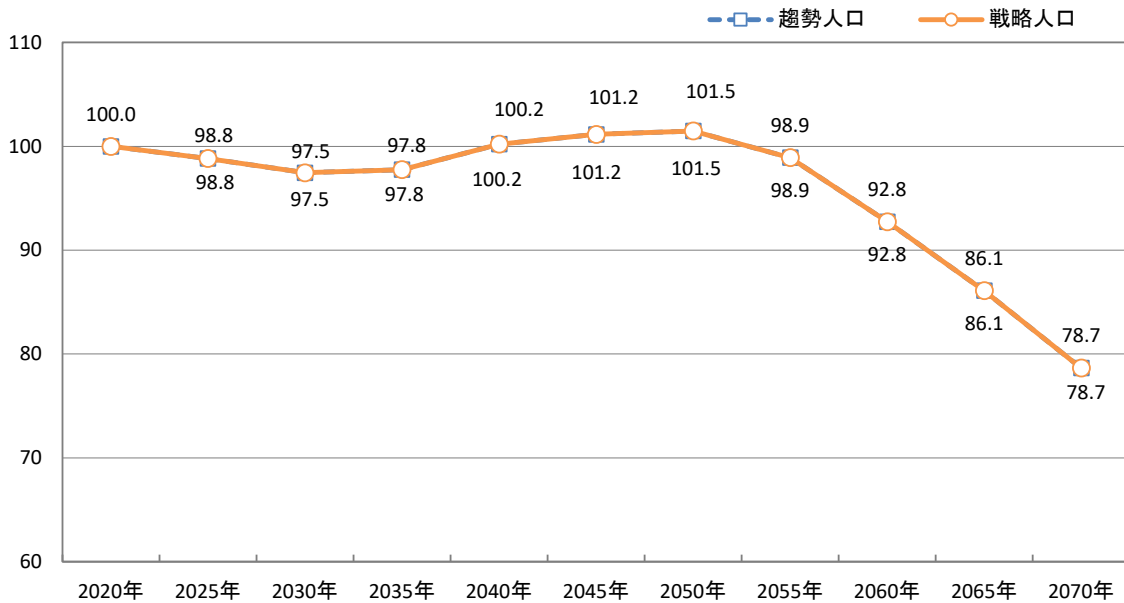
変化指数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	100.0	99.5	97.5	93.4	87.0	81.6	77.5	75.1	74.2	72.7	71.2
戦略人口	100.0	99.5	97.5	93.4	87.0	81.7	78.2	77.0	77.3	76.9	76.6

構成比	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	55.7%	56.2%	56.3%	55.6%	53.5%	51.8%	50.6%	50.5%	51.8%	53.0%	54.3%
戦略人口	55.7%	56.2%	56.3%	55.4%	52.9%	50.8%	49.6%	50.0%	51.5%	52.8%	54.2%

【老年人口(65歳以上)】

- 老年人口については、2050年には2020年の101%程度にまで増加することが見込まれますが、その後は減少傾向をたどり2070年には2020年の79%程度となると見込まれます。
- 人口構造に占める構成比で見ると、高齢化率は2050年の35%程度をピークに下降に転じる見込みです。
- 今後は、これまで以上にまちづくり等における高齢者の活躍が重要であり、また、期待されるところです。

老年人口(変化指数 2020年=100)



(単位:人)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	8,664	8,563	8,444	8,470	8,683	8,764	8,792	8,570	8,036	7,459	6,815
戦略人口	8,664	8,563	8,444	8,470	8,683	8,764	8,792	8,570	8,036	7,459	6,815

変化指数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	100.0	98.8	97.5	97.8	100.2	101.2	101.5	98.9	92.8	86.1	78.7
戦略人口	100.0	98.8	97.5	97.8	100.2	101.2	101.5	98.9	92.8	86.1	78.7

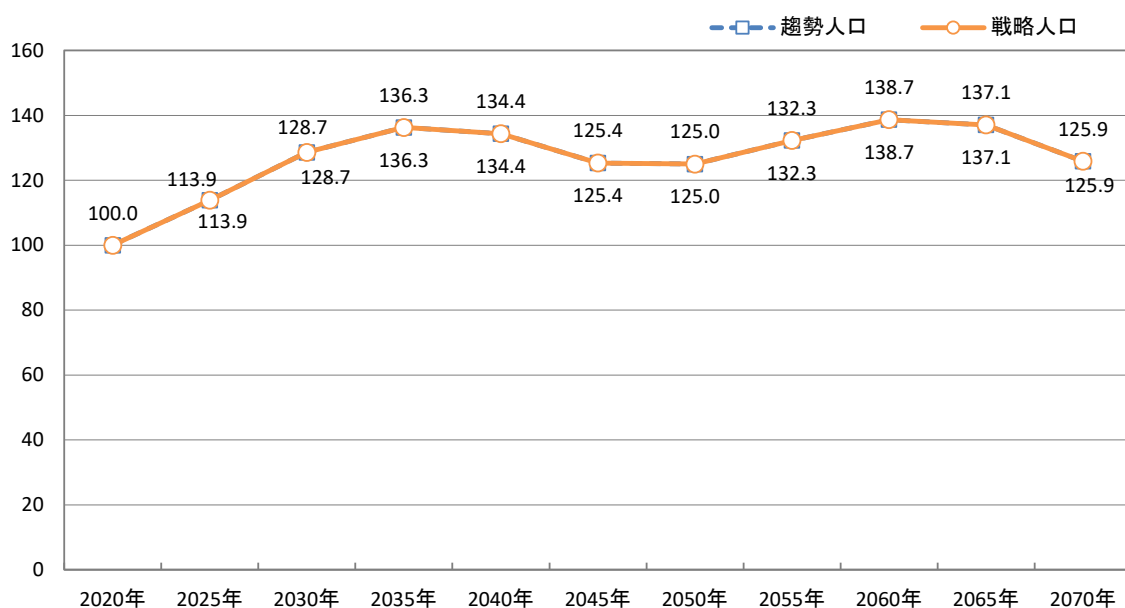
構成比	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	30.7%	30.7%	31.0%	32.0%	33.9%	35.4%	36.5%	36.6%	35.6%	34.5%	33.0%
戦略人口	30.7%	30.7%	31.0%	31.9%	33.5%	34.7%	35.4%	35.3%	34.0%	32.6%	30.7%

②介護・医療ニーズの視点からみた将来展望

【介護ニーズ】

- 介護ニーズについては、当面の老年人口の増加や高齢者の高齢化等により今後も増大し、2035年に2020年の136%程度にまで達し、2040年から2060年までは、2020年の概ね130%程度の水準で推移した後、2065年以降は減少傾向になり、2070年には125%程度になると見込まれます。
- 介護サービスについては、今後も長期的観点で施設・サービスの整備・充実をはかっていく必要があります。

介護ニーズ(変化指数 2020年=100)



(単位:人)

介護人口	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	1,580	1,799	2,033	2,154	2,123	1,981	1,976	2,090	2,191	2,166	1,989
戦略人口	1,580	1,799	2,033	2,154	2,123	1,981	1,976	2,090	2,191	2,166	1,989

変化指数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	100.0	113.9	128.7	136.3	134.4	125.4	125.0	132.3	138.7	137.1	125.9
戦略人口	100.0	113.9	128.7	136.3	134.4	125.4	125.0	132.3	138.7	137.1	125.9

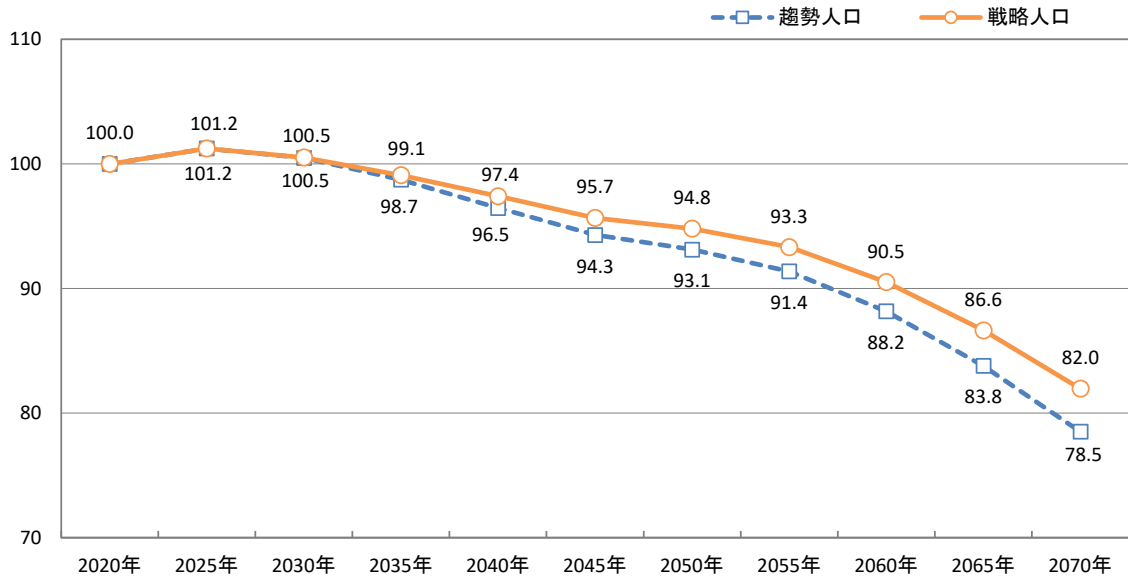
構成比	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	5.6%	6.4%	7.5%	8.1%	8.3%	8.0%	8.2%	8.9%	9.7%	10.0%	9.6%
戦略人口	5.6%	6.4%	7.5%	8.1%	8.2%	7.8%	8.0%	8.6%	9.3%	9.5%	9.0%

※厚生労働省「令和4年度介護保険事業状況報告(年報)」から算出した令和4年度の認定者割合を参考に、推計人口における介護人口を独自算出。

【医療ニーズ】

- 医療ニーズについては、2025 年に 2020 年の 101%程度にまで上昇した後は縮小していくと想定されます。

医療ニーズ(変化指数 2020 年=100)



(単位:人)

医療受療人口	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	1,718	1,739	1,726	1,696	1,657	1,620	1,599	1,569	1,515	1,439	1,349
戦略人口	1,718	1,739	1,727	1,702	1,673	1,643	1,628	1,603	1,555	1,488	1,408

変化指数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	100.0	101.2	100.5	98.7	96.5	94.3	93.1	91.4	88.2	83.8	78.5
戦略人口	100.0	101.2	100.5	99.1	97.4	95.7	94.8	93.3	90.5	86.6	82.0

構成比	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
趨勢人口	6.1%	6.2%	6.3%	6.4%	6.5%	6.5%	6.6%	6.7%	6.7%	6.7%	6.5%
戦略人口	6.1%	6.2%	6.3%	6.4%	6.5%	6.5%	6.6%	6.6%	6.6%	6.5%	6.3%

※厚生労働省「令和2年患者調査 都道府県編」から算出した奈良県の人口に占める患者割合を参考に、推計人口における医療受療人口を独自算出。

2-2 戦略人口の達成にむけて

将来の斑鳩町の姿(ビジョン)として第1期斑鳩町人口ビジョンから継続して掲げている次の“3つの願い”を継承し、戦略人口の達成にむけたまちづくりの基本的な考え方とします。

◇ 斑鳩に生まれ、斑鳩に育ち、斑鳩を愛す、元気な“斑鳩っ子”を増やしたい

- 本町においては、近年、良好な子育て環境を求めて多くの子育て世帯が転入していますが、少子化対策は、今日の人口減少問題に対応する上で、最も重要な対策であると考えます。
- 引き続き、安心して妊娠・出産ができ、子育てしやすい環境づくりを推進します。
- 2030年には町民希望出生率1.73の実現をめざすとともに、さらに2040年には人口置換水準である2.1にまで上昇させるよう取組みを行います。
- また、斑鳩に生まれ、斑鳩に育つ“斑鳩っ子”たちのまちへの愛着を醸成することで、成長とともに町外へ転出した若者の将来的なUターンの可能性を高めたいと考えます。

◇ 古(いにしえ)からの独自の文化・風土・資源を生かしてにぎわい・活力を創出したい

- 斑鳩町には、「世界遺産 法隆寺」をはじめ、古の時代から築き、守られてきた貴重な文化・風土・資源があり、全国的・国際的な知名度や集客力を誇っています。
- 人口減少時代において、こうした資源や個性を生かした観光による人の交流やにぎわいは、本町にとって、これまで以上に貴重な文化・財産であると考えます。
- “世界遺産 法隆寺”を核として、多彩な歴史、文化、自然を有する斑鳩の魅力を発信し、観光や商業・農業・工業等の地域産業の産業間連携を強化し、経済波及効果と雇用創出効果を高めるしくみづくりを推進します。

◇ “斑鳩でくらししてみたい”と誰もが感じられる魅力あるまち“斑鳩の里”でありたい

- 若い世代の人口が減少することは、少子化を加速するばかりではなく、町や身近な地域の元気・活力の観点からも大きな問題と言えます。
- 今後も、住み続けたいまち・住んでみたいまち・訪れたいまちをめざします。
- “斑鳩の里”の住みやすく魅力ある住環境・自然環境・景観を広く発信し、新たな住民の積極的な受け入れをはかるとともに、安心してくらす環境づくり、生涯健康で生きがいをもってくらすまちづくりを推進します。